

「立山黒部」の保全と利用を考える検討会

第2回検討会資料（別冊）

平成29年1月13日

富 山 県

観光・地域振興局
生活環境文化部

**次頁からの各プロジェクトについては、
委員、その他関係者をヒアリングし、
ご提案いただいたアイデアを掲載したものであり、
現時点での県の考えを示すものではありません。**

2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

01 混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充

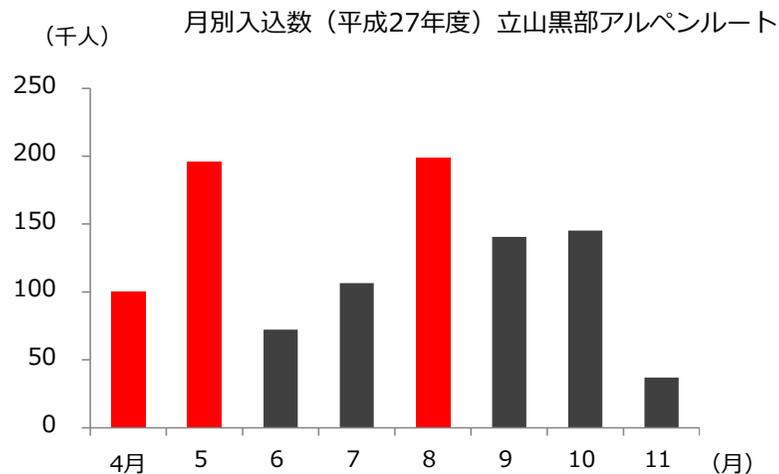
◎ 課題

○ 繁忙期等は、食事・休憩スペースが不足し、利用者の満足度が低下

混雑そのものを解消できないまでも、少しでも旅行者に快適に過ごしていただく配慮が必要



平日の室堂ターミナル(H28.9)



◎ 参考事例

● 星のや富士(富士箱根伊豆国立公園)

第2種特別地域に位置するグランピング施設。敷地内には、複数のオープンテラスがあり、食事や休憩を楽しむことができる。



◎ プロジェクト

● オープンテラス設置(晴天時)

例えば、室堂ターミナル屋上展望台(2種特別地域)を開放し、立山の優れた自然景観を眺めながら食事できるスペースを設置



● 簡易ベンチ・仮設トイレ等設置

憩うスペースを確保することにより、混雑時においても
満足度を確保する

◎ 実現に向けての課題

● 自然公園法の規制

(例:室堂ターミナル(第2種特別地域)での工作物の新築の場合)

① 規制計画

自然公園法施行規則(省令)で定める許可基準において、「特別保護地区」、「第1種特別地域」等での工作物の「新築」、「改築」又は「増築」は原則として禁止

→ 第2種特別地域以下のエリアにおいて、許可基準を満たした上で環境大臣の「許可」を受けて実施

② 公園計画

→ 区域を拡張する場合は公園計画を見直し、具体的な事業の内容について国の審議会(中央環境審議会)に諮り、公園事業として実施

立山黒部 オープンテラス設置イメージ



「山の日」の立山駅



平日の室堂ターミナル

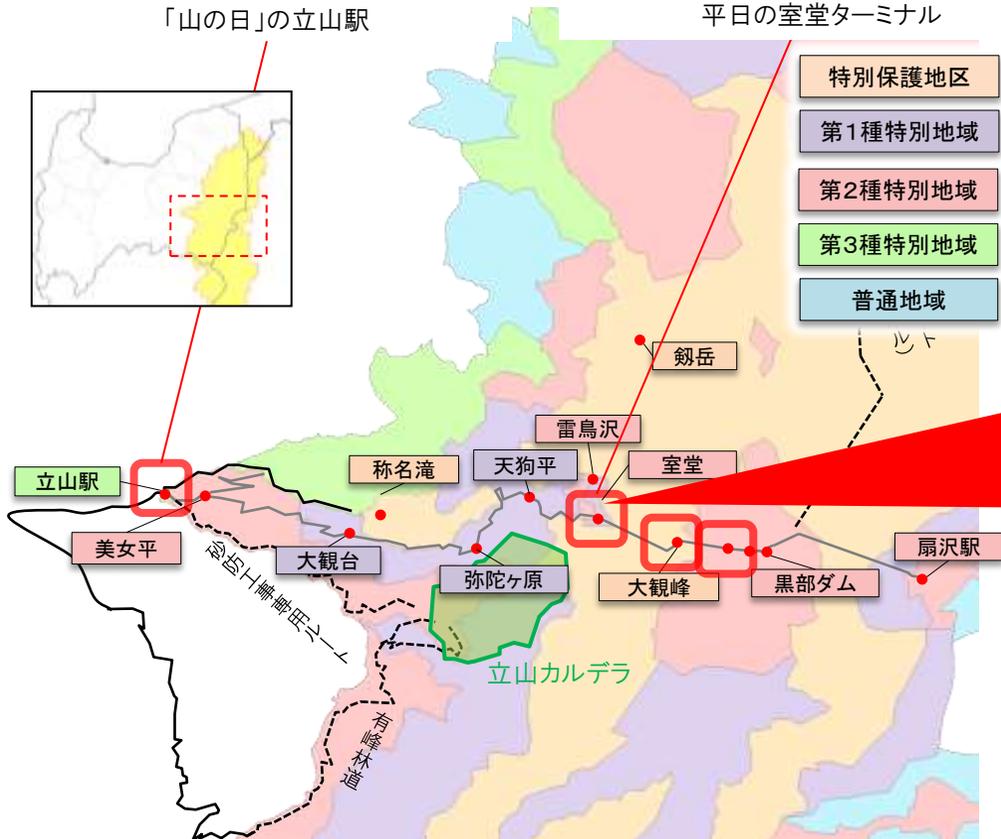
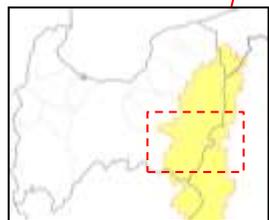


スイス ツェルマツト



室堂ターミナル屋上展望台

例えば、室堂ターミナルの屋上展望台に、オープンテラスを設置できないか



星のや富士は、富士箱根伊豆国立公園内の第2種特別地域に位置するグランピング施設。
敷地内には、複数のオープンテラスがあり、食事や休憩を楽しむことができる。
その他、宿泊施設としてのキャビンや、レストラン・屋外キッチン等の飲食可能な施設も整備されている。

星のや富士(富士箱根伊豆国立公園)



ホテルの位置と地種区分

●オープンテラス

- クラウドテラス
 - ・ 積層構造のウッドデッキ
 - ・ 焚き火スペース有
 - ・ 併設されている
カフェで飲食も可能



- 木漏れ日デッキ
 - ・ イスとベンチのみが
設置された休息所



ホテル名	星のや富士
開業年月日	2015年10月30日
国立公園名	富士箱根伊豆国立公園
公園区域指定年月日	1936年2月1日
当該地域の公園区域指定年月日	1936年2月1日
当該施設の公園事業における取扱	単独施設(野営場)
当該施設の地種区分	第2種特別地域

●宿泊

- ・ キャビンと呼ばれる宿泊施設
- ・ 客室数:40室
(44~53m²)
- ・ 全室レイクビューのテラスリビング付き



●食事

- ・ メインダイニング
中央に大きなグリル台が設置されたレストラン
- ・ クラウドキッチン
屋外キッチンであり、専属のシェフと一緒に料理が楽しめる
- ・ ライブラリーカフェ
グランドテラスに併設されたカフェ。無料の軽食やコーヒーが楽しめる



- 夏休み期間中に、日帰り旅行者が20:00まで室堂に滞在できたら・・・
8月上旬の日の入り時刻:19:00頃

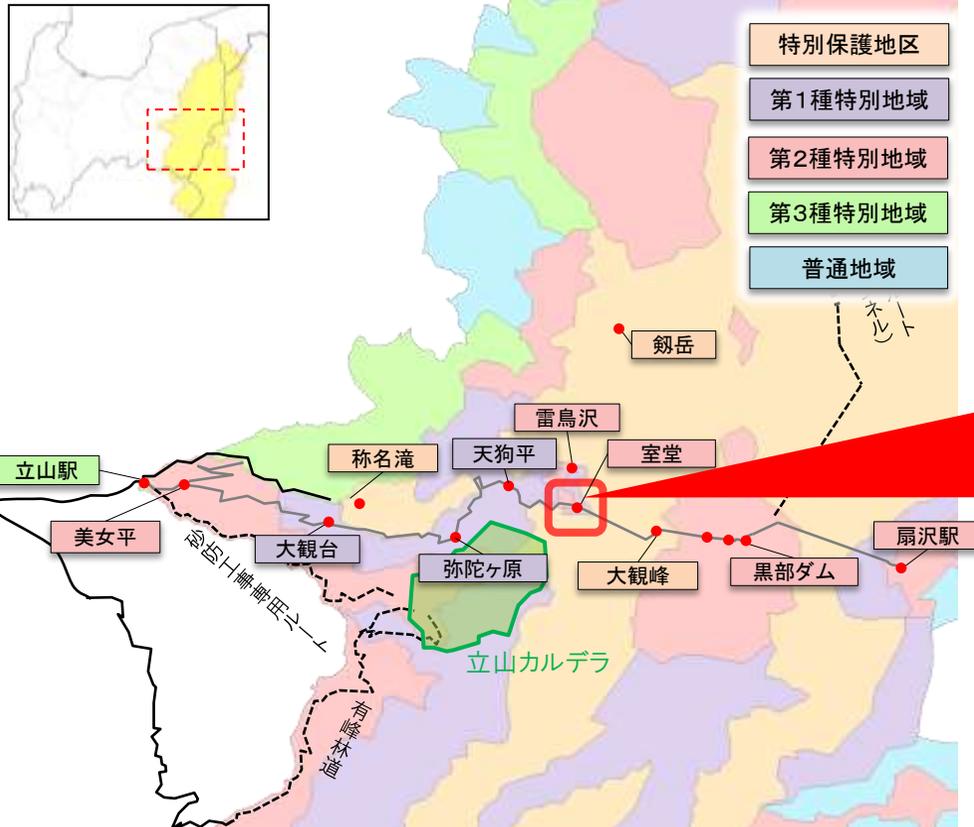
18:00～ 夕焼けを見ながらのディナー

19:00～ 星空ウォッチングツアー

※雨天時の代替プログラムの検討も必要

20:00～ 室堂から、高原バスに乗車し下山

※夜間の高原バス利用を完全予約制とするなど、
安全確保の仕組みが前提



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景



星空ウォッチングツアーイメージ
(出所)㈱星野リゾート HP

03 乗車整理券の配布

◎ 課題

室堂ターミナルで混雑時や臨時便に乗車するために行列が発生

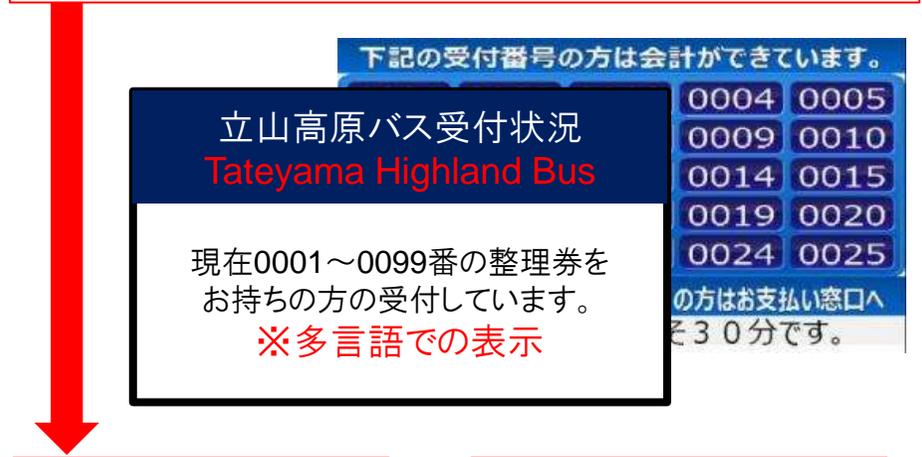


- 待ち時間が長い
- 待っている時間、消費やアクティビティが発生しない

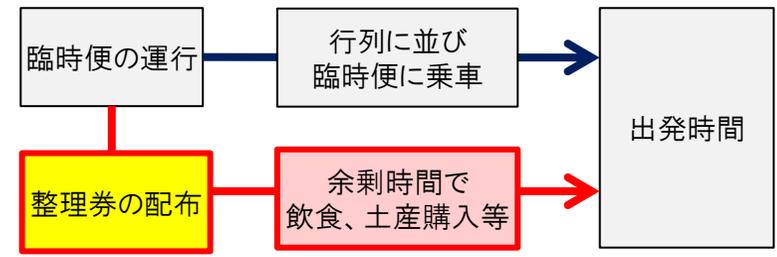


◎ プロジェクト

- 混雑時や臨時便の運行の際、整理券を配布
- 室堂ターミナル各階のデジタルサイネージやスマートフォン等で 順番を表示



臨時便等に乗るための待ち時間から解放 → 余剰時間で、新たな観光行動が発生



04 高原バス等のWEB予約システム

◎ 課題

○旅行の個人化が進んでおり、個人旅行者への対応が急務

チケット販売窓口、駅等での混雑

- 待ち時間が長い
- 待っている時間、消費やアクティビティが発生しない



「山の日」の立山駅

美女平～弥陀ヶ原で柔軟な滞在ができず、利用者の満足度が低い



- 高原バスの利便性が低い
(乗車時間の変更できない等)

【主な要因】

美女平や弥陀ヶ原には独特の自然景観を楽しむ魅力的な散策ルートがあるが、現地までのアクセス手段である高原バスの帰りの時間を常に気にしながらの散策となるため、満足度が下がる。

※利用者の安全な散策のために

美女平や弥陀ヶ原の多くのエリアでは、携帯電話やWiFiが通じず、安全・安心に散策することができない。災害時の情報伝達(アプリによるプッシュ通知)や、怪我や体調を崩したときの連絡手段として、電話・WiFiが必要

◎ プロジェクト

- ケーブルカー・バス等のWEB予約システムを導入

WEB上でいつでも時間指定の切符を購入できるシステム

待ち時間からの解放

余剰時間で、新たな観光行動が発生

高原バスの利便性向上により、**柔軟な滞在が可能に**

時間を気にせず、立山の自然を満喫でき、**利用者の満足度が高まる**



05 宿泊施設の整備

◎ 課題

○ 高価格帯の宿泊施設の不足

・立山黒部には、高価格帯の宿泊施設が少ない。

○ 域内の宿泊キャパシティに限界がある

・中部山岳国立公園は、訪日外国人の入込数に対して最大宿泊者数が少ない



山岳リゾート (スイスツェルマット)
(出所) スイス・ツェルマット観光局 HP

◎ プロジェクト

● ホテル誘致・改築等により 宿泊施設のクオリティアップを目指す

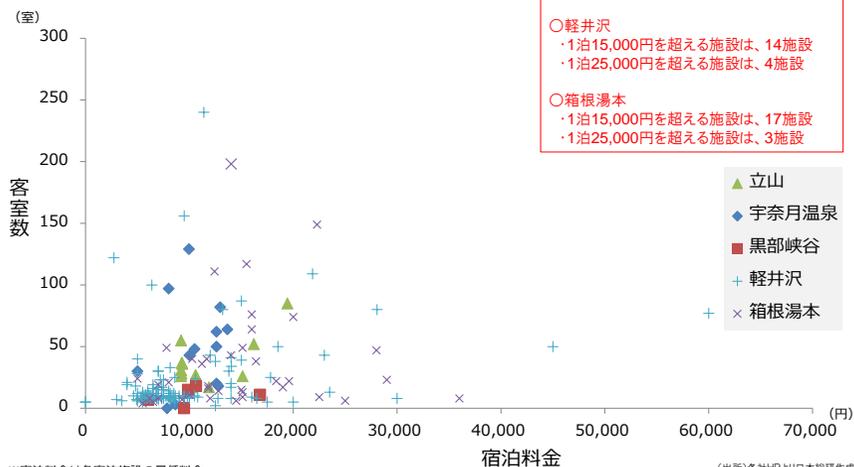
高価格帯の宿泊料金、質の高いサービスを提供

世界ブランド化に向けて、
富裕層など、幅広い
顧客層を獲得

質の高いサービスを提供し、
立山黒部の
リピーターを獲得

<参考> 宿泊施設

【宿泊施設の客室数・宿泊料金(軽井沢・箱根湯本との比較)】



◎ 参考事例

【国外事例】

- ホテル スイーツ デュ モンナタ (フランス、ヴァノワーズ国立公園)
- ジャクソン レイク ロッジ (アメリカ、グランドテイトン国立公園内)

【国内事例】

- アマネム (三重県、伊勢志摩国立公園内、第3種特別地域) ほか

◎ 実現に向けての課題

- 自然公園法による規制
- 事業の採算性



ホテル立山 外観



弥陀ヶ原ホテル 外観

Hôtel Les Suites Du Montanaは、フランスのヴァノワーズ国立公園内の、高所に位置する5つ星ホテル。

外観や内装は、地元の歴史・文化を踏まえたこだわりのあるものとなっている。

客室は全てサウナ・ジャグジー付の浴室を完備したスイートルームであり、また、ホテル内の設備としてスパも完備しており、**富裕層が好む良質な滞在環境**が整っている。

Hôtel Les Suites Du Montana (フランス)



- フランス南東、ヴァノワーズ国立公園*(Parc national de la Vanoise)内のティーニュに位置する。**標高約2,200m**
※1963年指定のサヴォア県に位置する国立公園。

- サヴォア県の宿泊施設からなるVillage Montanaグループに属している。グループにはティーニュ内で、Hôtel Les Suites Du Montanaのほか、3つの4つ星ホテルが含まれる。

●外観と内装 地元の特色を出した外観や内装



リビングルーム内装



ベッドルーム内装



リビングルーム内装

●客室

- 全室スイート27室
- サウナ・ジャグジー付の浴室を完備



●スパ設備

- 屋内温水プールとハمامがあるスパを完備



屋内温水プール

Jackson Lake Lodgeは、アメリカのグランドテイトン国立公園内の、高所に位置する4つ星ホテル。敷地内には、レストラン(3軒)、バーベキュー場、ショップ(4軒)等があり、施設が充実した宿泊施設となっている。

Jackson Lake Lodge (アメリカ)



- アメリカ北西、グランドテイトン国立公園* (Grand Teton National Park)内のモランに位置する。標高約**2,100m**
※1929年指定のイエローストーン国立公園の南、ワイオミング州に位置する国立公園。

● 外観



● 飲食施設

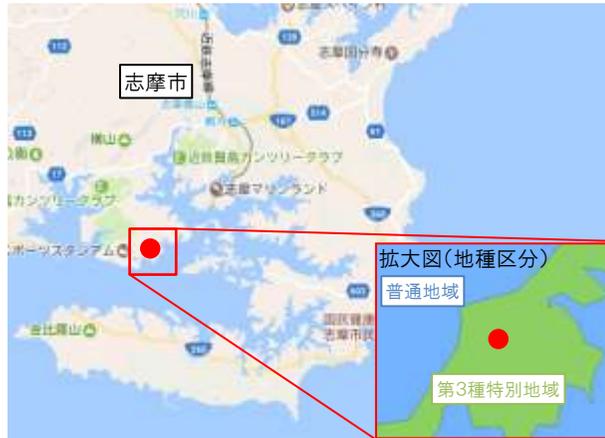


● 売店施設



アマナムは、伊勢志摩国立公園内の第3種特別地域に位置する高級ホテル。
三井不動産の運営するナムホテル&リゾートの敷地の一角に、2016年に新設。

アマナム(三重県志摩市)



ホテルの位置と地種区分

ホテル名	アマナム
開業年月日	2016年3月1日
国立公園名	伊勢志摩国立公園
公園区域指定年月日	1946年11月20日
当該地域の公園区域指定年月日	1946年11月20日
当該施設の公園事業における取扱	単独施設(宿舎)
当該施設の地種区分	第3種特別地域

●客室(スイート・ヴィラ)

スイート(24室):1~2名用

- 森・空・凧の3タイプの部屋
 - 寝室・リビング(99m²)
 - ベランダ(27m²)
 - プライベート温泉 等



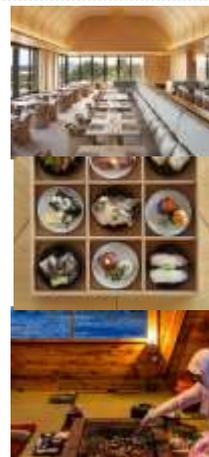
ヴィラ(4棟):1~6名用

- 森・空・凧の3タイプのヴィラ
 - 寝室(70m²)
 - リビング(61.8m²)
 - ベランダ(29m²)
 - プライベート温泉(25m²)等



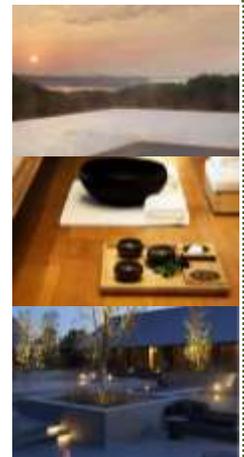
●食事

- 地元産の食材・食文化にこだわった最高級の食事を提供。(ホテル内での食事のほか、海女小屋で海女とともに食事を楽しむことも可能であり、地元の伝統・文化に直接触れられる機会も提供。)



●ホテル内施設

- 屋外温水プール
- スパ(マッサージ、セラピー等)
- フィットネスセンター(トレーニングマシン、ヨガスタジオ等)



界 箱根は、富士箱根伊豆国立公園内の第2種特別地域に位置する高級旅館。
既存の旅館を改装し、2012年開業。

界 箱根(神奈川県箱根町)



ホテルの位置と地種区分

ホテル名	界 箱根
開業年月日	2012年12月28日
国立公園名	富士箱根伊豆国立公園
公園区域指定年月日	1936年2月1日
当該地域の公園区域指定年月日	1936年2月1日
当該施設の公園事業における取扱	(公園事業としての認可は受けていない)
当該施設の地種区分	第2種特別地域

● 客室

- 全31室(46-80m²)
- 6タイプの客室を整備
- 露天風呂付きの客室及びリビング付きの客室を2017年2月にリニューアルオープン予定。



● 温泉

- 壁一面が抜けた半露天風呂の大浴場
- 眼前には清流・須雲川、その先には湯坂山が見える眺望
- 湯上がり処では、箱根ならではの飲み物を提供



● 食事

- 宿場町の町屋をイメージした半個室のプライベート感のある食事処
- 日本各地から旬の食材を取り入れた季節感あふれる料理を提供



06 滞在プログラムの充実

◎ 課題

○ 個人旅行者の増加に対応した、滞在プログラムの充実

団体旅行から個人旅行へと旅行形態が推移していく中で、ニーズを捉えた質の高い滞在プログラムが求められている。

○ 立山黒部をフィールドに、エコツーリズム等を展開する着地型ツアー業者・有償ガイドが不足



キャニオニング

◎ プロジェクト

● ツアーデスクの設置

例えば、アルペンルート内で着地型ツアーを実施する業者・有償ガイドが連携し、ツアーをワンストップで申し込みできるツアーデスクを設置、運営する。

● 提携ガイドの運賃減免等の支援

例えば、アルペンルート内で輸送事業を行う立山黒部貫光と着地型ツアー業者・有償ガイドが連携し、ガイドの運賃を減免するなどの優遇を行い、域内での滞在プログラムの造成を支援

着地型ツアーを企画する業者や有償ガイドの参入を促し、**質の高い滞在プログラムを充実させる**



ツアーデスクにおける旅行案内

◎ 参考事例



● ピッキオ (自然を活かした ツアー提供)



野鳥の森
ネイチャーウォッチング

- ・星野リゾート内にあり、軽井沢を拠点にエコツアーを企画実施。
- ・動植物の生態や進化、保全の考え方までを説明できる専門家が、さまざまな演出を工夫しながら、森の面白さ、大切さを伝える。
- ・年間1万人以上が訪れ、そのうち**2割がリピーター**。

○ 事業理念 (HPより一部抜粋)

事業の基本にあるのは、「**森本来の姿を経済的な価値として高く評価できれば、未来に森を残していける**」という考え方。

森のおもしろさや不思議さ、かけがえのなさを伝えることで、森の経済的な価値を高め、森を森の姿のまま後世に残していくことをめざしています。

○ 受賞歴

2005年「第1回エコツーリズム大賞(環境省)」大賞、
2007年「第4回オーライ!日本大賞(農林水産省)」など

◎ 参考事例

- エコロの森
- J-WETアドベンチャーズ
- 知床五湖(専門ガイドの質を高める仕掛け)

立山黒部で活躍する県内の着地型ツアー事業者 エコロの森、J-WETアドベンチャーズ

- エコロの森
(自然環境の保全と地域活性化を実現するエコツアーを提供)



森林セラピーちょっこりコース

- ・富山をフィールドに地域密着型のエコツアーを実施。
- ・環境保全につながることを主眼に置きエコツアープログラムを作成。
- ・ガイドには山岳ガイドなどの資格者を採用。

○事業理念(HPより一部抜粋)

「その土地の自然環境に負荷を与えず、その土地の自然、歴史や文化についてよく感じ、そしてその土地の発展につながる旅」を提案。

○受賞歴

2011年「第7回エコツーリズム大賞(環境省)」特別賞、
2014年「第7回エコツーリズム大賞(環境省)」優秀賞など

- J-WET
アドベンチャーズ
(富山の大自然を活かしたアクティブツアー)



キャニオニング

- ・富山の大自然を活かしたラフティング、キャニオニング、ネイチャーヨガ等を実施。
- ・豊富なガイド歴を持ったベテランスタッフが案内。

○事業目的

「富山の自然の素晴らしさを世界に伝えること」
夫婦で、100都市を訪問し、富山の住みやすさを再認識

最終目標は、

「標高差4,000m体感アクティビティをプロデュースすること」

そのため、県内のアウトドアツアー(マウンテンバイク、ジップライン、森林セラピー、富山湾クルーズ)とコラボレーションや地元との連携を積極的に行い、事業を実施。

知床五湖(専門ガイドの質を高める仕掛け)

登録引率者(専門ガイド)による有料ツアーの満足度は総じて高く、2015年にはガイドツアーによる散策期間が拡充されており、ガイドツアーにより観光地の魅力が向上しているといえる。

登録引率者になるためには、研修と試験を受け合格する必要がある。また、各登録引率者の利用者からの評価は、HP上で公開されており、登録引率者の質をより高めるための仕掛けがなされている。

●ガイドツアーの高い満足度

ガイドツアー参加者の声(知床五湖HPより)

●ガイドツアーによる散策期間の拡充

- 2015年より、「厳冬期の知床五湖エコツアー」を開始。
- 冬期は、知床五湖に至る道路が通行止めとなるため、原則、散策はできなかった。
- 利用調整地区制度に基づくものではないが、登録引率者によるガイドツアーのみで立ち入りが可能となった。



●ガイドの質の向上

(1)登録引率者の研修と試験

- 登録引率者になるためには、研修と試験への合格が必要。
- 一定の質が維持されている。

2016年の登録引率者要請研修日程
 3月2日(水)～4月18日(月) 募集受付
 4月26日(火) 応募者の面接
 5月上旬～10月下旬 座学・実施研修(7～25回:ツアー引率経験による)
 10月31日(月) 登録引率者試験(筆記試験)
 11月8日(火) 登録引率者試験(実地試験)
 11月下旬 合格発表

(2)より質を高める仕掛け

- HP上には、登録引率者の情報のほか、ツアー参加者の声と評価が、登録引率者ごとに個別に掲載されている。



登録引率者の一覧ページ
(知床五湖HPより)



登録引率者の個別ページ
(知床五湖HPより)

2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

07 アルペンルートの早期開業

◎ 課題

- 通年営業の実現
・アルペンルートは、年間約7か月半のみ営業し、冬季営業していない。
- 経営の安定化
・営業期間が限られるため、事業者の経営効率が悪い。
- 強みを活かした観光誘客
・雪の大谷は、台湾、香港をはじめ東南アジアの旅行者に訴求



◎ プロジェクト

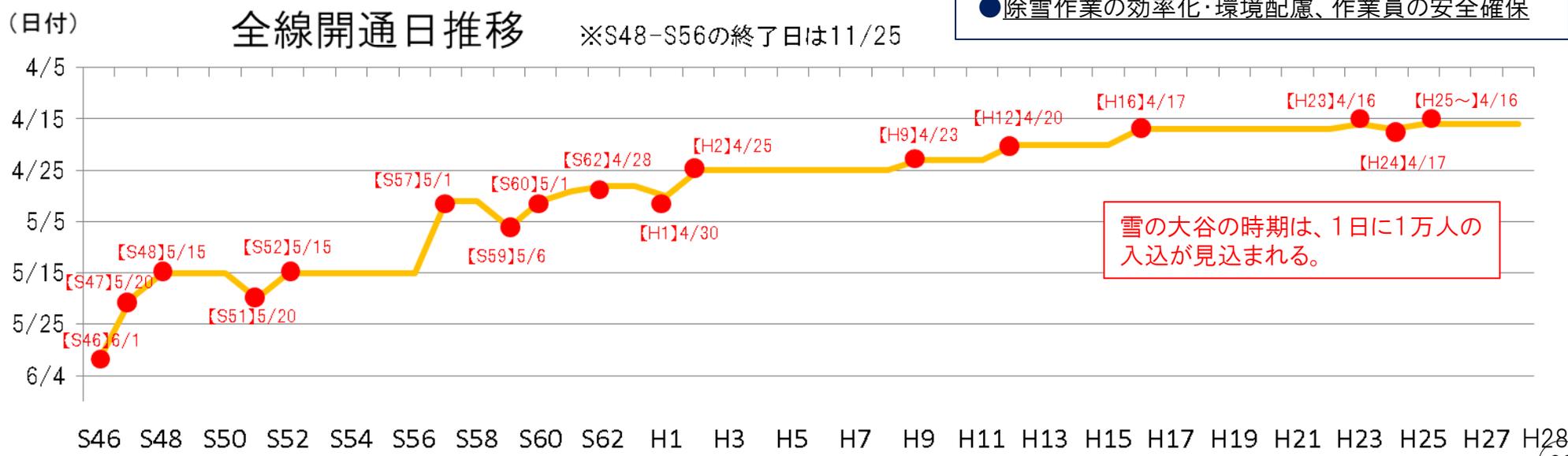
● 関係者の合意を得て、
春の早期開業を進める
環境保全、適正利用、安全管理、各事業主体の経営事情など総合的な観点から協議

↓

「雪の大谷」を中心に、訪日旅行者に訴求
アジア圏からだけでなく、欧米圏からの誘客を目指す

◎ 実現に向けての課題

- 除雪作業の効率化・環境配慮、作業員の安全確保



雪の大谷の時期は、1日に1万人の入込が見込まれる。

08 アルペンルート冬季営業の試験的实施

◎ 課題

○ 通年営業の実現

・アルペンルートは、年間約7か月半のみ営業し、冬季営業していない。

○ 経営・雇用の安定化

・営業期間が限られるため、事業者の経営効率が悪い。また、季節雇用者が多い。

○ 冬季の観光誘客

・富山県は、アルペンルートや黒部峡谷鉄道が営業していない冬季の誘客が課題



◎ プロジェクト

扇沢～室堂(～天狗平)区間の冬季営業を試験的に実施

● 大町アルペンラインの冬季供用

● 扇沢～室堂区間の各輸送施設の冬季運行

・現在も、ルート内の各輸送施設は保守点検等を目的に冬季運行している

● 関西電力黒部ダム天板の冬季通行

● 宿泊施設の冬季営業

・ホテル立山 ・立山高原ホテル

● 冬季の滞在プログラムの提供

(利用区域、催行可能条件等を厳密に定めた限定利用を前提)

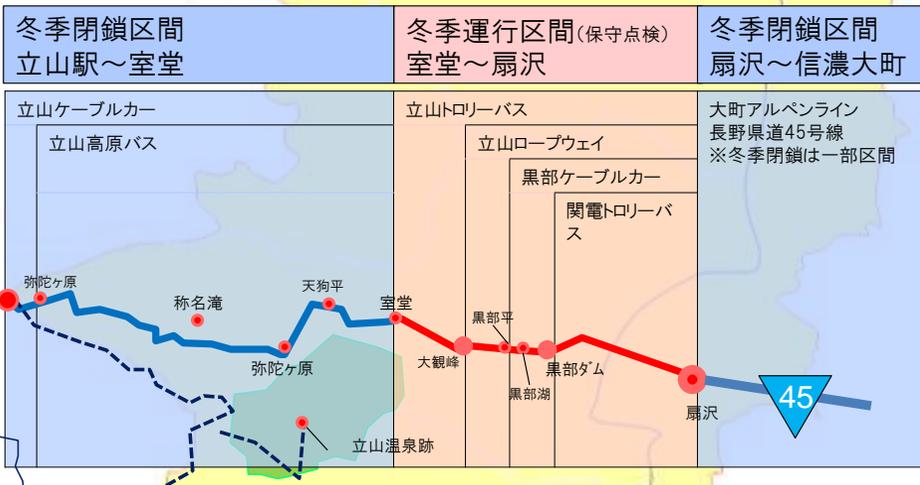
・スノーシューツアー ・山岳ガイド同行の山岳スキー 等

通年営業の実現による、
冬季の誘客展開

世界に類を見ない「冬の立山」
を新たなブランドとして展開

ホテル立山、立山高原ホテルの年間稼働率向上

アルペンルートの冬季運行の状況



◎ 実現に向けての課題

● 道路供用の問題

大町アルペンライン(長野県道45号扇沢大町線)は、冬季閉鎖

● 黒部ダム天板の除雪

● 室堂～天狗平までの運行(除雪 or 雪上車)

● ターミナルでの冬季の過ごし方の提案

アルペンルート 冬季営業の試験的実施イメージ



09 黒部峡谷鉄道の冬季営業

◎ 課題

○ 通年営業の実現

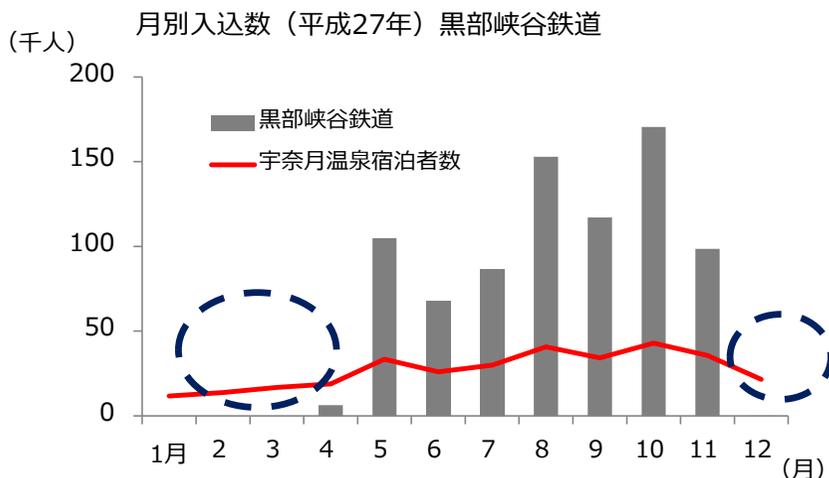
・黒部峡谷鉄道は、年間約7か月のみ営業し、冬季営業していない。

○ 宇奈月の冬季の観光誘客

・宇奈月温泉の宿泊者数は、冬季に落ち込む

○ 冬の観光素材を活かした魅力の提案

・温泉、雪、魚といった、本来冬に魅力を発揮する観光素材の活用



◎ プロジェクト

● 冬季営業のための安全確保

● 黒部峡谷鉄道の通年営業(一部区間)

● 冬季限定の滞在プログラムの実施

例えば、トロッコ乗車＋新柳河原発電所内の見学ツアー＋食・温泉

黒部峡谷鉄道の冬季営業を起爆剤に、**宇奈月の冬の魅力を活かした誘客を展開**



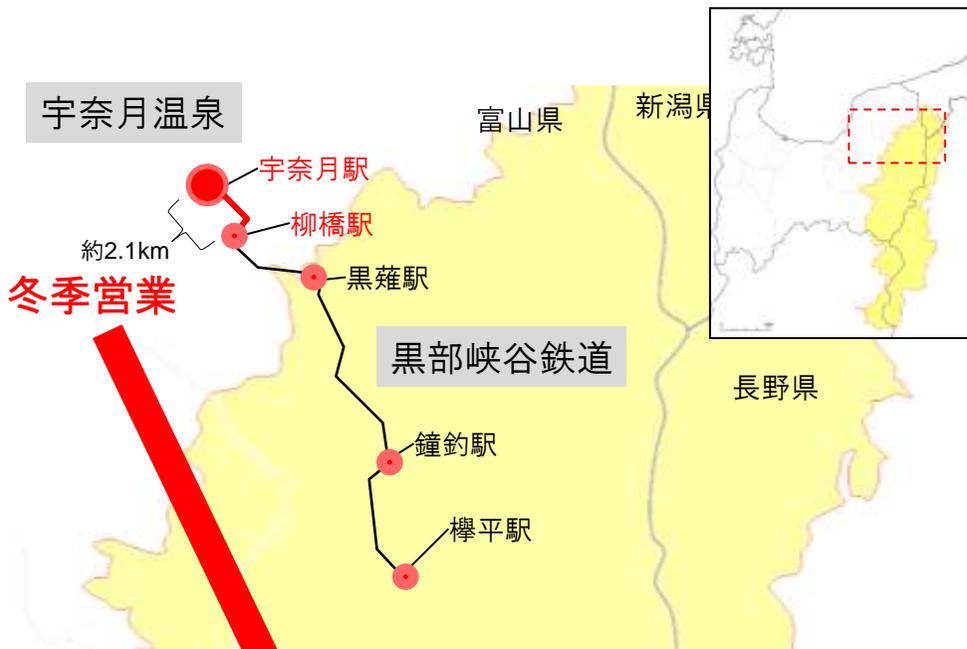
◎ 実現に向けての課題

● スノーシェードの設置工事

● トロッコ電車、到着駅での過ごし方の提案

例えば、冬季は一部区間のみでの営業とすると、到着駅での過ごし方の提案が必要である。

黒部峡谷鉄道の冬季営業イメージ



柳橋駅

一般利用者の乗降車不可(発電事業専用)

- スノーシェード工事による冬季の安全確保
- 黒部峡谷鉄道の通年営業(一部区間)
- トロッコ電車、到着駅での過ごし方の提案
(例えば、トロッコ+新柳河原発電所内の見学ツアー)



黒部峡谷鉄道の冬季営業を起爆剤に、
宇奈月の冬の魅力を活かした誘客を展開

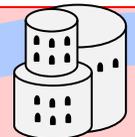


黒部峡谷鉄道トロッコ電車

宇奈月駅

宇奈月駅～柳橋駅区間
全長約2.1km

柳橋駅



新柳河原発電所

新柳河原発電所



2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

10 ヘリスキーの企画・実施

◎ 課題

○ 冬季の観光誘客

・富山県は、アルペンルートや黒部峡谷鉄道が営業していない冬季の誘客が課題



山岳スキー

○ 豊富な積雪量を活かした新たな魅力の提案

○ 欧州、米国などの新規市場の開拓

◎ 参考事例

<国内事例>

● 榑池高原スキー場

つがいけ高原ヘリスキー&ボードツアー

・長野県内の中部山岳国立公園内において、ヘリスキーを実施。

・ライチョウへの影響をなくすための配慮がなされている。

※ライチョウの生態に合わせ立入禁止区域を変更



ヘリスキーツアー
募集チラシ

<海外事例>

● ウィルダネスヘリスキー

ニュージーランド、アオラキ/マウント・クック国立公園内において、ヘリスキーを実施。

◎ プロジェクト

● ヘリスキーの企画・実施

プロによる安全管理のもと、専門知識を備えた世界の山岳スキーヤーを対象にした上級者向けヘリスキーの企画・実施を検討。



立山の豊富な積雪量を活かした
新たな誘客展開が可能に



◎ 実現に向けての課題

● 自然公園法の規制

・特別保護地区及び乗り入れ規制地域でのヘリの離着陸
→環境大臣の許可を要する

・乗り入れ規制地域以外の特別地域内でのヘリの離着陸
→次の場合、原則として離着陸を認めない運用

- ①高山植物群落、湿原等を有する地域であって、ヘリコプターの乗り入れにより当該地域の自然環境への影響が予想される場合
- ②野生動物の生息地、繁殖地として重要な地域であってヘリコプターの乗り入れにより野生動物への影響が予想される場合
- ③現に、登山、スキー等の利用が行われている地域であってヘリコプターの騒音により利用環境が損なわれる場合
- ④その他ヘリコプターの乗り入れが当該地域の自然環境に重大な影響を及ぼすことが予想される場合

「国立、国定公園内におけるヘリコプターの乗り入れについて
(昭和59年3月環自保第109号、環境庁自然保護局長通達)」

- 環境負荷への配慮
- 利用者の安全確保
- 集客性の高い魅力的な企画づくり

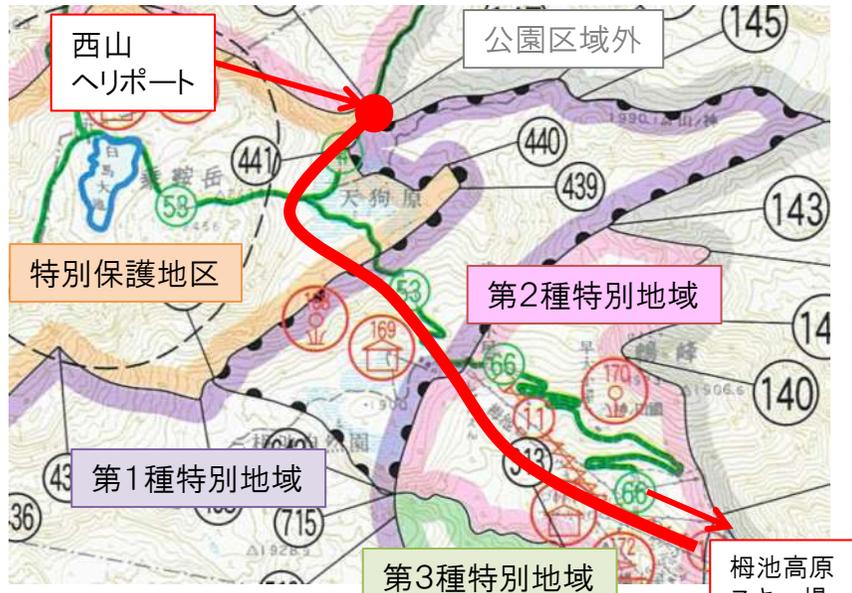
国内、国立公園内でのヘリスキー(柵池高原スキー場)

長野県内の中部山岳国立公園内において、ヘリスキーが実施されている。環境へ配慮し、特にライチョウへの影響を最小限とするための対策が実施されている

つがいけ高原ヘリスキー & ボードツアー

(3月中～下旬、4月下旬～5月上旬)

	地点名	標高	地種区分
搭乗地点	白樺駅	952m	公園区域外
降機地点	西山ヘリポート	2,204m	公園区域外
滑走範囲	—	—	公園区域内



スキールート概略

(地図: 中部山岳国立公園区域及び公園計画図(北部)の一部)

- 柵池 Gondola リフト「イブ」白樺駅より、天狗原近くの西山ヘリポートまでヘリコプターで移動し、柵池高原スキー場までの約14kmを滑走するバックカントリースキー。
- 1970年に地元の有志により開始され、1973年4月より商業的に実施されている。ヘリスキーの催行については、環境省を含む地域の関係団体による協議を踏まえ実施されている。

● 環境への配慮

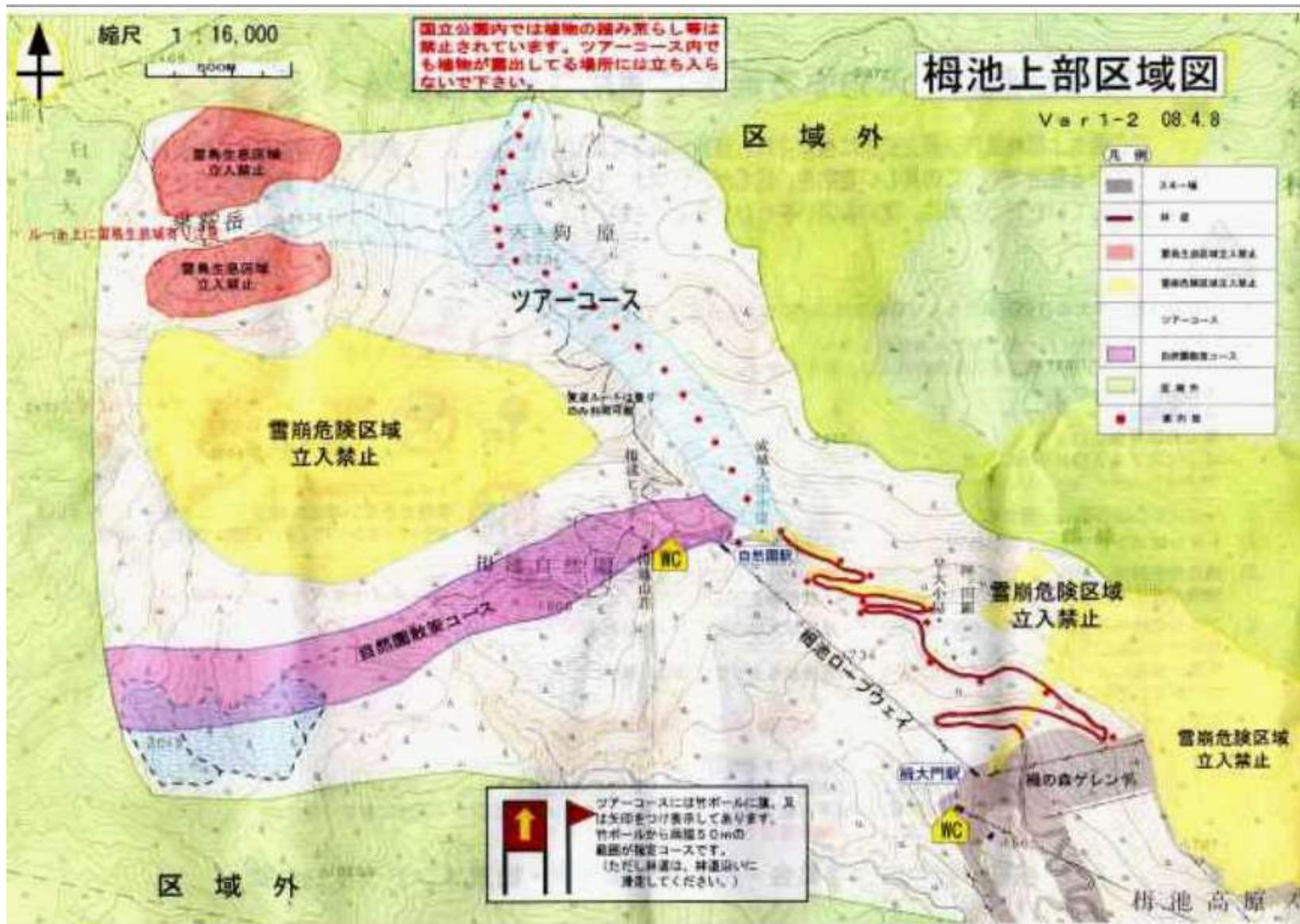
- ライチョウへのヘリスキーによる影響をなくすため、立入禁止区域をライチョウの生態に合わせ適宜変更している。

(右図: ヘリ搭乗者が渡されるマップ。立入禁止区域(赤枠)が変更されていることが分かる。)

- 毎年、立て看板を設置することで、注意喚起している。



国内、国立公園内でのヘリスキー(つがいけ高原ヘリスキー&ボードツアー)



ヘリスキー参加者に配られるツアーコース説明図

国外、国立公園内でのヘリスキー (ウィルダネスヘリスキー ニュージーランド アオラキ/マウント・クック国立公園内)

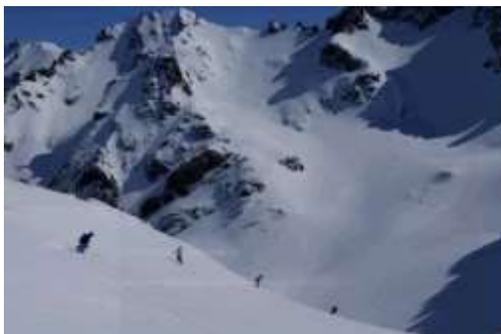
ニュージーランドのアオラキ/マウント・クック国立公園内において、ヘリスキーは実施されている。

ウィルダネスヘリスキー(ニュージーランド)

- アオラキ/マウント・クック国立公園(Aoraki/Mount Cook National Park)は、ニュージーランドの南島にある国立公園。1953年指定。1990年にはユネスコの世界自然遺産に登録されている。
- マウント・クック飛行場より、ヘリコプターで移動し、滑走後、再度ヘリコプターに搭乗する。



アオラキ/マウント・クック国立公園
(ニュージーランド)



ヘリスキーの様子

11 黒部ルート見学会の旅行商品化

◎ 課題

- アルペンルートと黒部峡谷は、それぞれ異なる特有の自然景観や魅力を有するが、周遊することができない
- 電源開発の歴史を活かし、さらなる観光需要の創出が必要

◎ プロジェクト

- 「黒部ルート見学会」を旅行商品の一部に組み込んで販売し、観光客に開放
- さらに、安全が確保できることを前提として見学会の枠を拡大

- 立山エリアと黒部エリアを結ぶ周遊観光の実現
- 電源開発の歴史が詰まった貴重な産業観光・インフラ観光ルートの形成

◎ 実現に向けての課題

- 安全性の問題や発電所運営上の支障(関西電力)

黒部ルートとは

黒部ダムと黒部峡谷の櫛平を結ぶルート。黒部川第三発電所、第四発電所の建設などに伴い、関西電力(株)が工事専用軌道として整備したもの。現在、公募見学会が行われているが、一般の観光客には開放されていない。



<見学会の概要>

- ・ 公募枠 **2,040名** <H28年度>
- ・ 開催日 **平日のみ**
- ・ 参加費 **無料**
- ・ 見学コース
 榎平出発コース
 黒部ダム出発コース
- ・ 定員 **各コース30名/回**



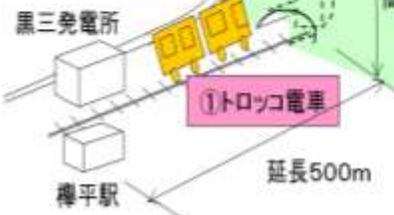
インクライン

黒部ルート
(関電専用ルート)



縦坑エレベーター

② 縦坑エレベーター



① トロッコ電車

延長500m



高熱隧道内



発電施設内



黒部トンネル内のタル沢横坑を抜けると裏剣や氷河が展望できる

(出所)関西電力(株)資料をもとに作成

黒部ルートの一部(専用鉄道、竖坑エレベーター)を活用した「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」を平成27年5月から運行開始

・樺平駅周辺上部にパノラマ展望台を整備。展望台へのルートとして、黒部ルートの一部を活用

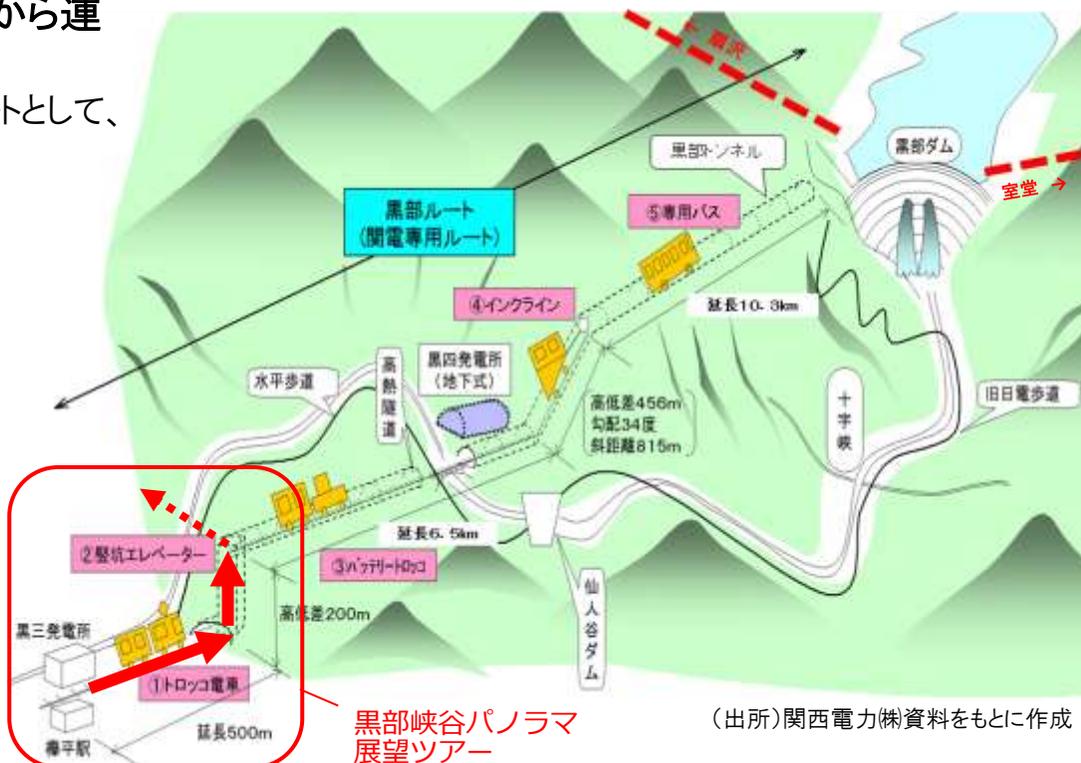
・黒部・宇奈月温泉観光局が旅行商品として販売

<概要> トロッコ電車、竖坑エレベーター、峡谷・展望台散策

<実施期間> 6～11月の金土日月(1日4便)

<定員> 1便あたり53人(年間約2万人)

<料金> 大人:5,000円 子供:3,200円
※黒部峡谷鉄道運賃(宇奈月～樺平の往復3,420円)・ガイド料・保険料等として



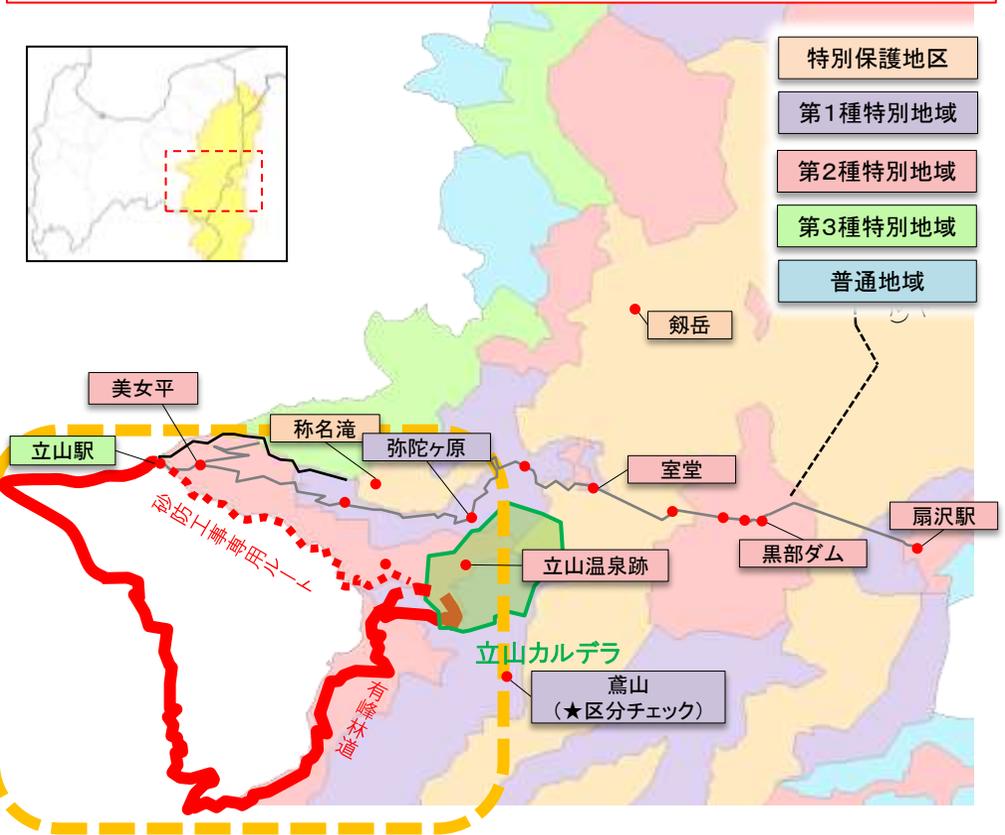
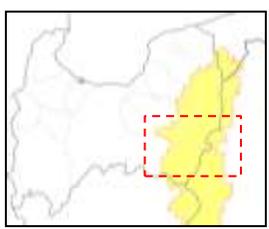
(出所)関西電力㈱資料をもとに作成



12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

◎ 課題

- 新たな周遊ルートの開発
(立山駅～立山カルデラ)
- 産業遺産、自然景観を活かした新たな魅力の提案



◎ プロジェクト

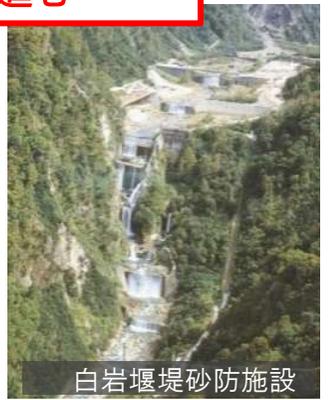
● カルデラ体験学習会の旅行商品化

例えば、これまで公募で実施してきたカルデラ体験学習会の一部を観光客に開放する



プレミア感のある魅力的なツアー造成による、
新たな立山黒部の誘客展開

県内外に露出することで、
世界文化遺産登録を目指している「立山砂防」の周知が進む



◎ 実現に向けての課題

- 魅力の高いコース設定
- 天候不順による催行中止の代替案
- 国所有施設の活用にあたる関係者の調整

立山駅から立山カルデラまでの、砂防工事専用トロッコを利用したルートが存在。
現在は、年40回程度の体験学習会の際のみ一般公開

○学習会の概要

- ・公募枠 **1,960**名(H28年度)

○主なコースの種類

- ・トロッコ個人コース(水曜日) 大人2,000円、小学生1,000円
- ・トロッコ団体コース(木曜日) 無料(バス代、有峰林道通行料は応募団体が負担)
- ・バスコース(金曜日) 大人2,000円、小学生1,000円

トロッココースに人気が集まる

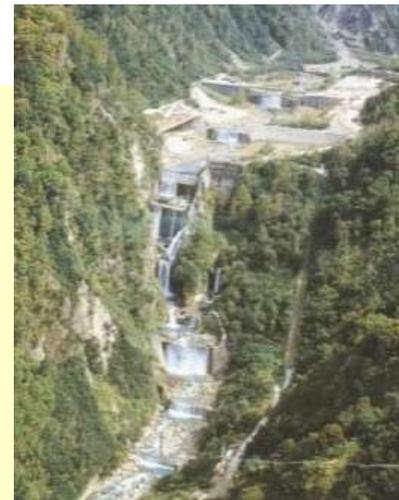
●砂防工事専用軌道 トロッコ

体験学習会の際のみ
一般公開しており
人気が高い



●白岩堰堤砂防施設

- ・落差日本一(108m)の砂防堰堤
- ・国の重要文化財



●本宮砂防堰堤

- ・日本最大の貯砂量(500万m³)の砂防堰堤
- ・国の重要文化財



2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

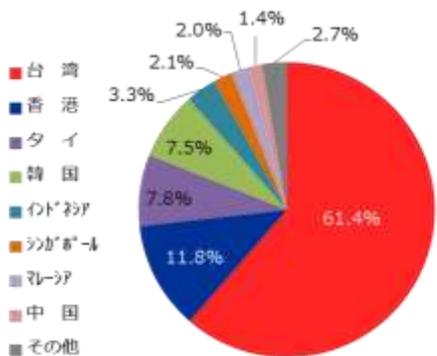
経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

13 新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上

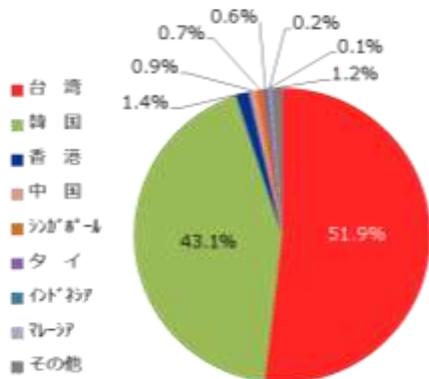
◎ 課題

- 欧米豪等からの観光客数の割合が低い
- 欧米豪等での本県認知度が低い

立山黒部アルペンルート
平成27年 214,700人



黒部峡谷鉄道
平成27年 20,562人



外国人宿泊実態調査(県観光課調べ)

区分	H25	H26	H27
A: 欧米豪宿泊者数	9,464	8,973	16,132
B: 外国人宿泊数	129,255	146,576	200,235
A/B	7.32%	6.12%	8.06%
対前年度伸率	-	94.81%	179.78%

◎ プロジェクト

- 旅行ガイドやWEBサイト等を活用した効果的な情報発信による認知度の向上
- 欧州のグルメガイド(ミシュラン、ゴ・エ・ミヨ)で高い評価を受けている 本県の食の魅力と併せた情報発信

● 広域観光周遊ルートの形成促進

「新ゴールデンルート」など広域観光周遊ルートの形成促進を図り、北陸新幹線沿線地域や国のVJ事業等と連携して旅行会社やメディア等の招聘事業や現地での観光プロモーションを実施

【例】「東京・北陸アーチパス」などの割引キップを活用したモデルコースの紹介、招聘事業 など



◎ 実現に向けての課題

- 認知度向上に寄与する広告媒体との連携

【欧米豪市場における観光客の特徴】 平均滞在日数が長く、旅行支出も多いため地域活性化が期待できる

観光庁「H27訪日外国人消費動向調査」(数値はフランス市場)によると

- ・平均滞在日数: 10.2日(訪日外客全体5.3日)
- ・1人当たり旅行支出: 209,333円(訪日外客全体176,167円)
- ・訪日前に期待していたこと ①日本食、②自然・景観地観光、③日本の歴史・伝統文化体験などが上位を占めており、「立山黒部」の観光資源は欧米の旅行者に訴求

14 多言語表記・案内の充実

◎ 課題

○「立山黒部」を訪れる訪日外国人個人旅行者(FIT)が増加しているが、多言語表記・外国語案内が不十分である

過去最高(13年前の10.2倍)

【アルペンルートへの訪日旅行者入込数】

区分	H15	H25	H26	H27	H28	対前年比
総数	23,731	145,314	191,900	214,700	241,900	113%
うちFIT	団体客のみ		21,100	37,400	59,200	FIT急増 158%
台湾	20,242	105,613	131,000	131,800	138,700	105%
韓国	2,874	10,488	10,100	16,000	17,600	110%
中国	35	347	1,600	3,000	4,600	153%
香港	133	15,408	18,100	25,400	28,500	112%
タイ	189	8,122	16,200	16,800	18,800	112%
シンガポール	0	1,500	3,500	4,500	4,500	100%
インドネシア	0	2,800	4,600	7,100	9,400	132%
マレーシア	0	600	2,400	4,300	5,400	126%
ベトナム	0	50	86	225	452	201%

○訪日旅行者向けの
ユーザビリティの高い情報提供ができていない

デジタルサイネージ設置イメージ



- 時刻表、乗車方法、沿線案内等の情報を発信
- 利用者がタッチパネルを操作して必要な情報を選択
- 5言語対応(英語、簡体字、繁体字、韓国語、タイ語)

◎ プロジェクト

● アルペンルート及び黒部峡谷鉄道内の駅・施設における多言語表記、ピクトグラムでの情報発信

【具体例】: 駅構内へのデジタルサイネージの設置
→H28立山駅、H29室堂駅及び黒部湖駅(予定)



● ユーザビリティの高い情報提供による訪問者の満足度向上

【具体例】: 高原バス等乗車中における多言語でのイヤホンアナウンス等
: インバウンド向け実態調査

◎ 関連プロジェクト

- ・プロジェクトNo.03 乗車整理券の配布
- ・プロジェクトNo.06 滞在プログラムの充実
- ・プロジェクトNo.15 携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消
- ・プロジェクトNo.21 登山道の整備
- ・プロジェクトNo.22 環境意識の啓発



16 ユニバーサルサービスの推進

◎ 課題

○ 魅力的だが、健脚でなければ楽しめない観光素材

・例えば、日本一の落差を誇る「称名滝」は立山駅から近く、アルペンルートと合わせて楽しめる観光素材だが、多くの旅行者が気軽に観光するためには、アクセスの改善が必要。



称名滝まで1km以上続く坂道を、車椅子を押しながら歩む旅行者

○ 国内外からの個人旅行者の増加に対応した受け入れ環境の整備

・例えば、大きな荷物を持った訪日旅行者、足に不安のある旅行者など、どんな方でも楽しめる受け入れ環境の整備を進める必要がある。

◎ プロジェクト

- 称名滝までの電気バスの運行を検討
現在は「歩行者専用道路」となっている、称名滝までの約1kmの区間に、アクセス改善のため電気バス等を運行を検討。
- アルペンルート、室堂～みくりが池周辺のバリアフリー化
- 宇奈月温泉街～黒部峡谷鉄道のバリアフリー化
階段のみの駅にエレベーターやスロープを設置するなど、沿線のバリアフリー化を進めていく。

だれもが楽しめる観光地へ



アルペンルート ケーブルカー乗り場



富山地方鉄道宇奈月温泉駅入り口



室堂周辺(みくりが池まで)は、車イスでも散策できるよう石畳が整備されているが、まだまだ利便性が高いとはいえない。

2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

◎ 課題

- ボトルネックの解消 (立山ケーブルカーの混雑緩和)
- 通年営業の実現
- 弥陀ヶ原での冬の魅力の提案
- 新たな観光ルートの開発 (称名滝、弥陀ヶ原の活用)



◎ プロジェクト

- 魅力的で、環境に配慮した新しい輸送施設の導入
- 立山～称名滝～弥陀ヶ原ロープウェイの建設
(概算額:320億円以上)
 - 拠点となる「弥陀ヶ原ターミナル」の設置

ボトルネックの解消による、**利用者満足度の向上**

通年営業の実現による、**冬季の誘客展開**

日本一の落差を誇る「称名滝」、ラムサール条約登録湿地の「弥陀ヶ原」等、素晴らしい景観を一望できる **新たな魅力創出**

◎ 参考事例

- スカイウェイ・モンテ・ビアンコ(イタリア、クール・マイユール)
2015年5月にモンブランにオープン
ミーティングルームや映画館等を備えるなど施設が充実したロープウェイ
- 宮島ロープウェイ(広島、瀬戸内海国立公園)
1959年4月にオープン。特別保護地区指定後に建設されたロープウェイ

◎ 実現に向けての課題

- 自然公園法による規制
- 事業の採算性
- ターミナルでの冬季の過ごし方の提案

18 立山カルデラロープウェイ

◎ 課題

- 新たな周遊ルートの開発
・弥陀ヶ原～立山カルデラ
- 産業遺産、自然景観を活かした新たな魅力の提案
・立山砂防、立山カルデラの活用

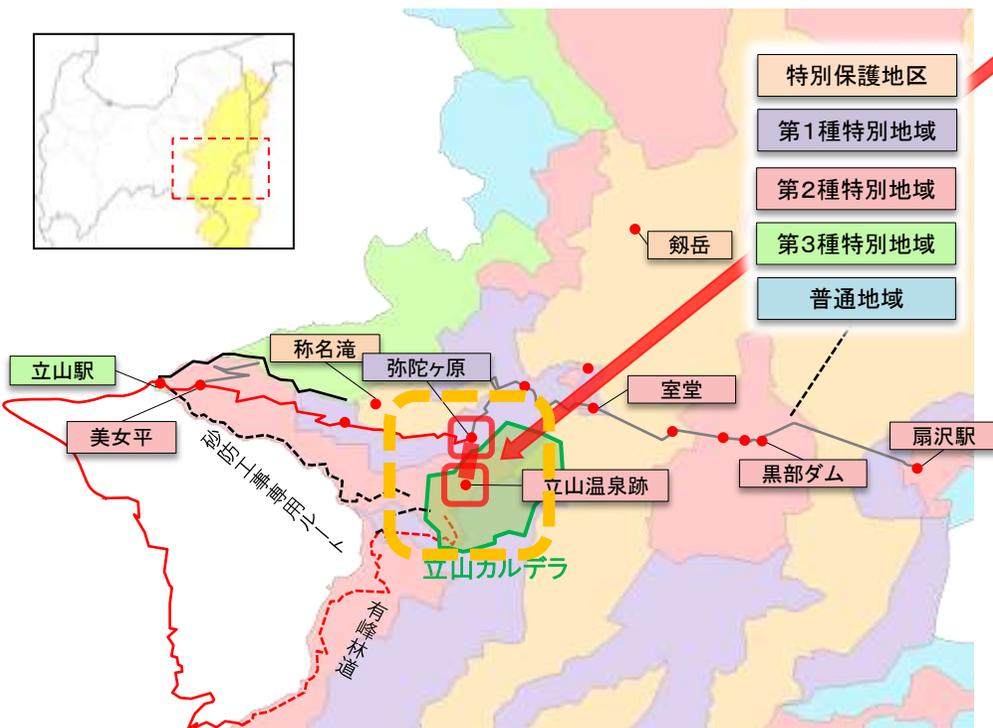
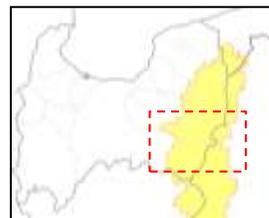


◎ プロジェクト

- 弥陀ヶ原～立山カルデラロープウェイの建設
(概算額:80億円以上)
- 拠点となる「弥陀ヶ原ターミナル」の設置

弥陀ヶ原と立山カルデラを結ぶルート開発により、
通り抜け観光から
周遊・滞在型観光へ
転換を図る

自然の脅威と人類の英知
が共存する
「産業遺産」を活用した、新たな立山黒部の誘客展開



◎ 参考事例

- スカイウェイ・モンテ・ビアンコ(イタリア、クール・マイユール)
2015年5月にモンブランにオープン
ミーティングルームや映画館等を備えるなど施設が充実したロープウェイ
- 宮島ロープウェイ(広島、瀬戸内海国立公園)
1959年4月にオープン。特別保護地区指定後に建設されたロープウェイ

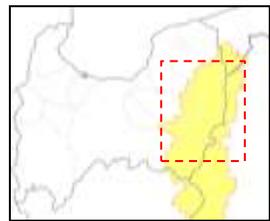
◎ 実現に向けての課題

- 自然公園法による規制
- 事業の採算性
- 立山カルデラを活かした滞在コンテンツの提案

19 黒部峡谷ロープウェイ

◎ 論点

- 新たな周遊ルートの開発 (立山～黒部)
- 自然景観を活かした新たな魅力の提案 (黒部峡谷の活用)



◎ プロジェクト

● 榎平～黒部ダムロープウェイの建設

立山と黒部を結ぶ **ルート開発**により、通り抜け観光から **周遊・滞在型観光へ転換**を図る



黒部峡谷

◎ 参考事例

- **スカイウェイ・モンテ・ビアンコ** (イタリア、クール・マイユール)
 - 2015年5月にモンブランにオープン
 - ミーティングルームや映画館等を備えるなど施設が充実したロープウェイ
- **宮島ロープウェイ** (広島、瀬戸内海国立公園)
 - 1959年4月にオープン。特別保護地区指定後に建設されたロープウェイ

◎ 実現に向けての課題

- **自然公園法による規制**
- **事業の採算性**

2015年5月にモンブランにオープンしたスカイウェイ・モンテ・ビアンコは、ミーティングルームや映画館等を備え、施設が充実したロープウェイである。

Skyway Monte Bianco

(イタリア)

- ・ 2015年5月31日運転開始。
- ・ モンブラン(イタリア語でモンテ・ビアンコ)の麓、クール・マイユールから標高3,466mにあるエルブロンネル展望台を結ぶロープウェイ。



● Pontal d'Entrèves(山麓駅) (標高1,300m)

- ・ 地下駐車場(350台分)
- ・ 大型バス専用駐車場
- ・ バー ・ チケット販売窓口
- ・ 売店 ・ 観光案内所



● ゴンドラ

- 1st 定員80名 2nd 定員75名
- ・ キャabinは360° 回転
- ・ ゴンドラ内マルチメディア大画面で常に映像資料、気象情報、ゲレンデ情報、イベント案内などが上映

● Pavillon du Mont Fréty(中間駅)

標高2,200m

- ・ ボタニックガーデン ・ 展示会場
- ・ ソラリウム ・ ハイキング・ルート
- ・ モンテビアンコビュー ・ ショッピング・エリア
- ・ ミーティング会場/映画館(150席)
- ・ レストラン2軒(合計150席) ・ ワイナリー



● Punta Helbronner(山頂駅)

エルブロンネル展望台

標高3,466m

- ・ バー/レストラン
- ・ 展望テラス
- ・ 水晶展
- ・ プロモーション・ビデオ上映コーナー





アルプス山脈を挟んで、フランスとイタリアには、それぞれ、シャモニーとクール・マイユールと呼ばれる夏は登山、冬はスキーの拠点となる世界的に有名な滞在型観光地が存在する。両観光地は、ロープウェイ及びトンネルで結ばれており容易に行き来が可能。また、周遊を促すために、両観光地で利用できるスキークラスも販売。

●シャモニー(フランス)

フランス側のモンブラン観光の拠点。初心者から上級者まで幅広い年代が楽しめるコースがある高級スキーリゾート地。夏は登山やハイキングで賑わう。

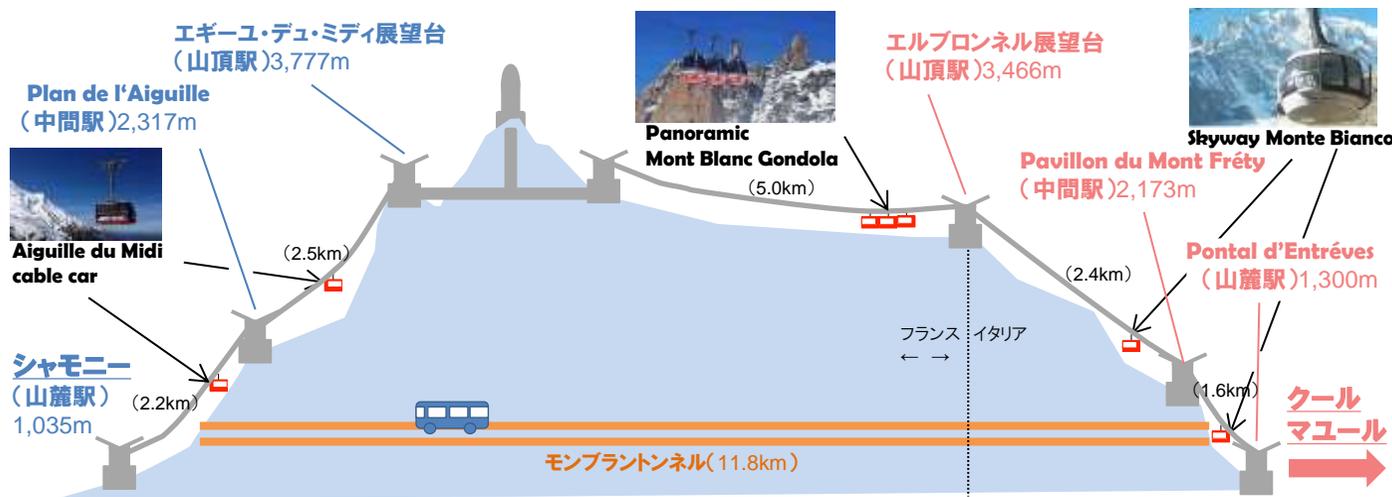
街中には、美術館やバロック様式の教会があり、周辺には伝統的な古民家が残る小集落が点在し、散策する場所も豊富。



●クール・マイユール(イタリア)

イタリア有数のスキーリゾート地。夏に楽しむ山岳スポーツ(トレッキング、サイクリング等)のための施設も充実しており、1年を通して様々なレジャーを楽しむことができる。

街中には、世界的に有名な高級ブランド店が立ち並び、ショッピング環境も充実している。



シャモニー(フランス)ークールマイユール間を結ぶロープウェイとトンネルの全体像
(括弧内は各ロープウェイ・トンネルの全長)

MONT BLANC Unlimited ski pass

- シャモニーやクール・マイユール等(注1)のスキー場のリフトが利用できるスキークラス。
- パス所持者は、シャモニー〜クール・マイユール間のバス等(注2)が無料又は割引料金で利用可能。

(注1)フランス、イタリア、スイスのスキー場(フランス: Brevent-Flégère area, Grands Montets area, Balme Tour Vallorcine area, Aiguille du Midi, Montanvers Mer de Glace train, Tramway du Mont-Blanc, Les Houches area, Evasion Mont-Blanc/イタリア: Courmayeur area/スイス: Verbier 4 Vallées area)で利用可能。

(注2)各スキー場に向かうバスが、無料(CHAMONIX BUS, CHAMONIX - LES HOUCHEs, CHAMONIX - MEGEVE - CHAMONIX)又は割引料金(CHAMONIX - COURMAYEUR)で利用可能。また、モンブラントンネルも割引料金で利用可能。

国内 特別保護地区内のロープウェイ

特別保護地区に駅がある又は、特別保護地区を通過するロープウェイは全国に3箇所。
「宮島ロープウェイ」は、特別保護地区指定後に建設されたロープウェイ。

ロープウェイ名		摩耶ロープウェイ	宮島ロープウェイ	雲仙ロープウェイ
事業認可取得年月日		1954年6月23日	1957年11月	1956年11月8日
建設開始年月日		不明(1954年6月23日以降)	1958年4月5日	不明(1956年11月8日以前)
開業年月日		1955年7月12日	1959年4月1日	1957年7月15日
全長(傾斜長)		857m	1,102m・525m	481m
管理運用事業者		一般財団法人 神戸すまいまちづくり公社	広島観光開発株式会社	雲仙ロープウェイ株式会社
区間	駅名 (特別地域区分)	虹の駅 (第2種特別地域)	紅葉谷駅 (第2種特別地域)	仁田峠駅 (第2種特別地域)
		星の駅 (第1種特別地域)	榎谷駅 (特別保護地区)	妙見岳駅 (特別保護地区)
	備考	特別保護地区を通過		

国立公園名 (公園区域指定年月日)	瀬戸内海国立公園 (1934年3月16日)	瀬戸内海国立公園 (1934年3月16日)	雲仙天草国立公園 (1934年3月16日)
当該地域の公園区域指定年月日	1956年5月1日	1950年5月18日	1934年3月16日
特別保護地区指定年月日	1971年4月12日	1957年10月23日	1965年12月22日
公園計画における当該索道事業の取扱	・2001年1月5日に公園事業として認可。	・利用計画(運輸施設(索道))として盛り込まれており、公園事業の一つ(宮島ロープウェイ線)として執行されている。	・利用計画(索道運送施設)として盛り込まれており、公園事業の一つ(仁田峠妙見岳線)として執行されている。

(出所)瀬戸内海国立公園管理事務所「瀬戸内海国立公園(広島地域)管理計画書」(平成元年3月)、瀬戸内海国立公園管理事務所「瀬戸内海国立公園(六甲地域)管理計画書」(平成6年3月)、九州地方環境事務所「雲仙天草国立公園雲仙地域管理計画書」(平成17年11月)、一般社団法人日本鉄道運転協会「運転協会誌8月号(通巻第686号)」(2016年8月)及び各社HPより日本総研作成

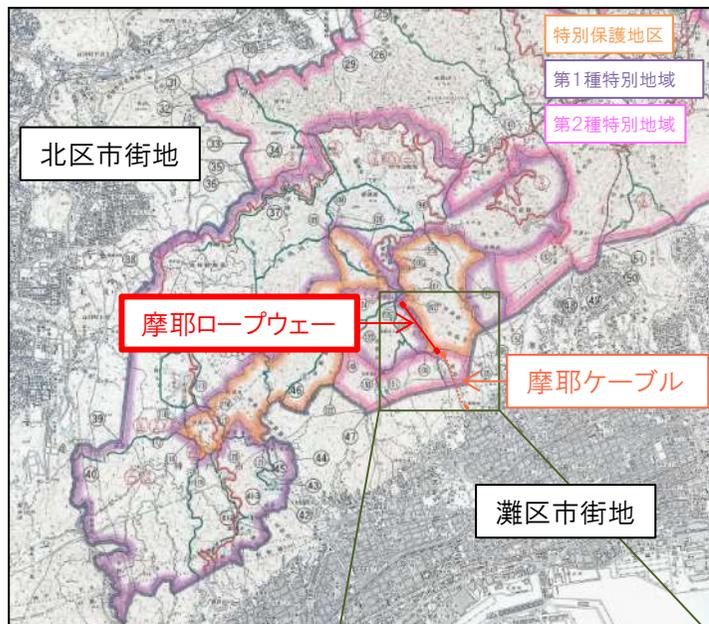
国内 特別保護地区内のロープウェイ／摩耶ロープウェイ

摩耶ロープウェイは、瀬戸内海国立公園内に位置するまやビューラインの一部であり、第2種特別地域の虹の駅から、第1種特別地域の星の駅を結ぶロープウェイ。ロープウェイは、特別保護地区上空を通過。

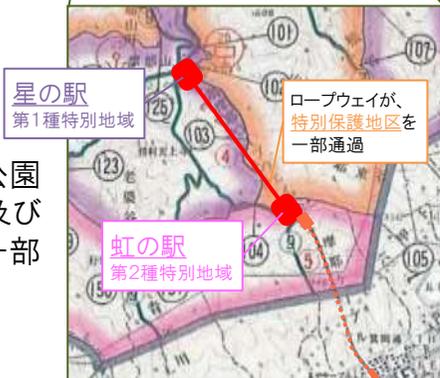
摩耶ロープウェイ

(兵庫県神戸市、瀬戸内海国立公園)

- 神戸市灘区市街地から摩耶山山頂付近を結ぶ「まやビューライン」(摩耶ケーブルと摩耶ロープウェイからなる)の一部。



瀬戸内海国立公園
(六甲地域)区域及び
公園計画図の一部



外観



構内図

●虹の駅(山麓駅)

第2種特別地域

- ・摩耶ケーブルからの乗換駅
- ・トイレと待合所有



おりひめ



ひこぼし

●ゴンドラ

- ・定員 29名
- ・運行間隔 20分
- ・乗車時間 5分
- ・現在使用されているゴンドラは2001年に新造されたもの



外観



構内図

●星の駅(山頂駅)

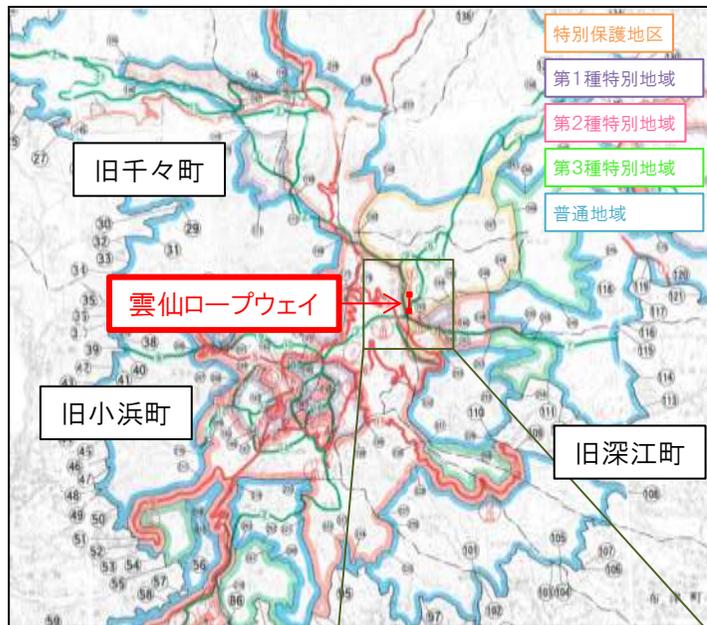
第1種特別地域

- ・喫茶店有
- ・屋上には展望デッキ有

雲仙ロープウェイは、雲仙天草国立公園内に位置し、第2種特別地域の仁田峠(にたとうげ)駅から、特別保護地区の妙見岳(みょうけんだけ)駅を結ぶロープウェイ。

雲仙ロープウェイ

(長崎県雲仙市、雲仙天草国立公園)



雲仙天草国立公園
(雲仙地域)区域及び
公園計画図の一部



- 仁田峠循環自動車道路の途中の仁田峠駅から妙見岳山頂付近を結ぶ。



外観



- にたとうげ
- 仁田峠駅(山麓駅)
第2種特別地域
 - ・売店有
 - ・駐車場(大型車 20台、普通車 200台)



ぎんが



ぎんれい

- ゴンドラ
- ・定員 36名
- ・運行間隔 4~8分
- ・乗車時間 3分
- ・現在使用されているゴンドラは1993年に新造されたもの



外観



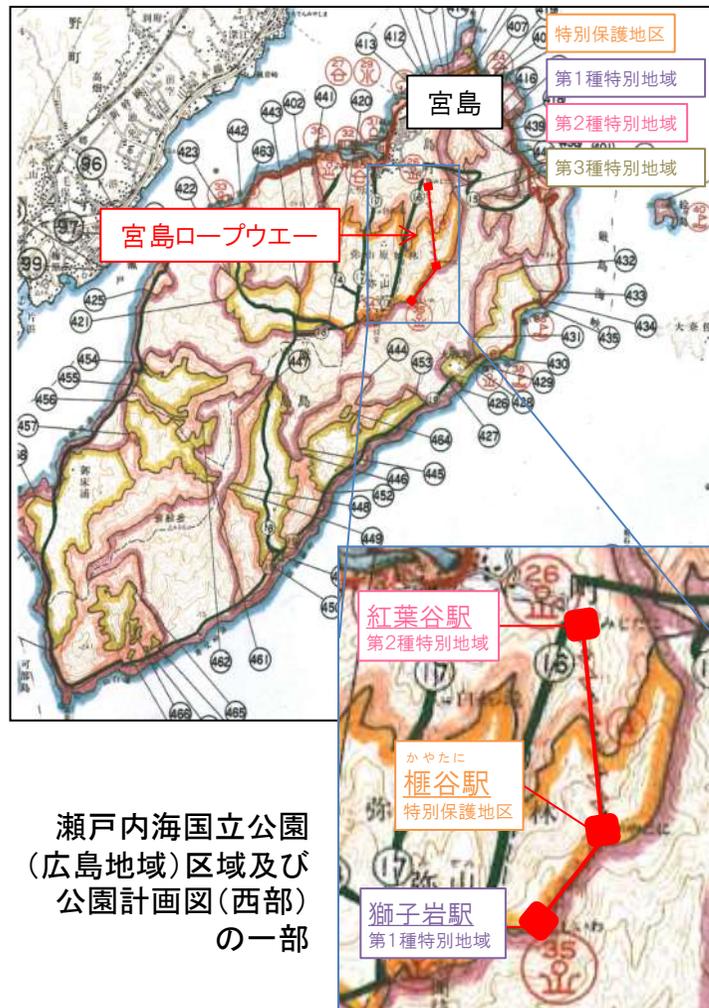
妙見岳展望所

- みょうけんだけ
- 妙見岳駅(山頂駅)
特別保護地区
 - ・屋上には展望デッキ有
 - ・妙見岳展望所まで徒歩5分

宮島ロープウェイは、瀬戸内海国立公園内に位置し、第2種特別地域の紅葉谷(もみじだに)駅から、特別保護地区の榎谷(かやたに)駅で乗換え、第1種特別地域の獅子岩(しいわ)駅を結ぶ。特別保護地区指定後に建設。

宮島ロープウェイ

(広島県廿日市市、瀬戸内海国立公園)



・紅葉谷公園内の紅葉谷駅から弥山山頂付近を結ぶロープウェイ。



もみじだに
●紅葉谷駅
(山麓駅)
第2種特別地域
・トイレと待合所有



●ゴンドラ(紅葉谷～榎谷)
・定員 8名
・運行間隔 1分
・乗車時間 10分



かやたに
●榎谷駅
(中間駅)
特別保護地区
・設備等は特になし



●ゴンドラ(榎谷～獅子岩)
・定員 30名
・運行間隔 15分
・乗車時間 3.5分



しいわ
●獅子岩駅
(山頂駅)
第1種特別地域
・駅周辺は展望所として整備されている
・弥山山頂まで徒歩 30分

20 宇奈月温泉街の賑わい創出

◎ 課題

○ まち歩きしたくなる環境整備

・少し足を伸ばせば体感できる自然の魅力等地域の資源が十分知られておらず、昼夜を問わず、まちなかに賑わいが無い。

・特に、夜間の温泉街は、蛍や星など見所はあるものの、まち全体が暗い印象のため、外出する環境が不十分。

○ 冬季の魅力創出

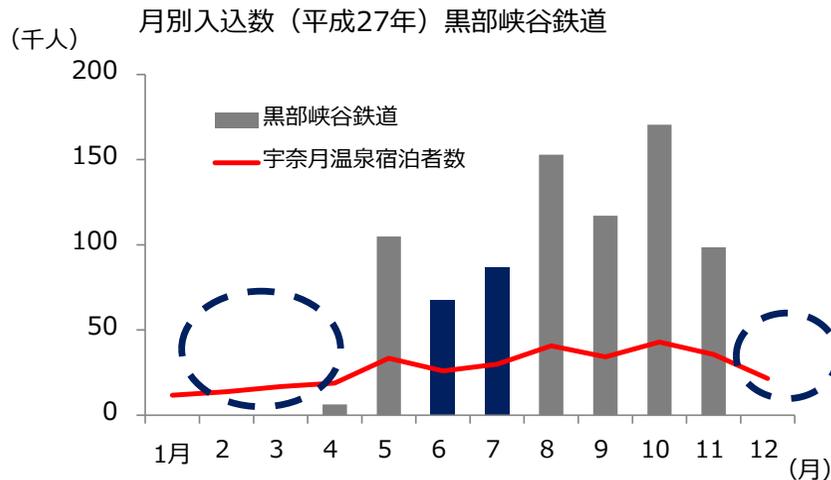
・宇奈月温泉の宿泊者数は、黒部峡谷鉄道が営業していない冬季に落ち込む



宇奈月温泉街(昼)



宇奈月温泉街(夜)



◎ プロジェクト

● 宇奈月公園の散策路等整備

宇奈月の魅力ある自然(蛍など)と触れ合うことができる空間の創出

● マップ・観光案内板の整備

まち歩きモデルコースや、距離・時間がわかるマップ等の整備

● ガイドマニュアルの作成・ガイドの育成

地域住民が観光客へ地域の魅力を案内

● 旅館ホテルの夜間景観形成

観光客が夜に安全に外出できるとともに、美しい夜間を楽しむことができる景観形成

● 冬の温泉街を楽しむことができる仕掛けづくり

例えば、雪を楽しむイベント、冬の花火、ライトアップ、セレネ美術館での魅力的な企画展、月に因んだ百名月物語の実施等

昼・夜、季節を問わず
まち歩きを楽しめる温泉街へ

◎ 実現に向けての課題

- 魅力あるスポットの整備
- 空き店舗対策、夜間の賑わい創出
- 人の流動や観光消費を生み出す仕掛けの検討

2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

21 登山道の整備

◎ 課題

- 訪日旅行者への対応
・登山道の案内看板が多言語表記になっていない。
- 魅力的な散策ルートの整備
- 登山道の老朽化、危険個所の整備



弥陀ヶ原に整備された木道



老朽化した木道(スリップ事故多発)



とやまの山岳環境整備ボランティア

◎ プロジェクト

- 案内看板の更新
多言語表記による国立公園の利用ルール等の周知
- 登山道の整備・更新
例えば、歩くアルペンルートの再整備、弥陀ヶ原～大日平にあった吊橋の復元整備などにより、トレッキングニーズに対応
- 県民協働による登山道の整備
山岳関係者・一般ボランティアが協働し、木道の安全対策等を実施



ワズユース(賢明な利用)の推進による、**適正利用の推進**

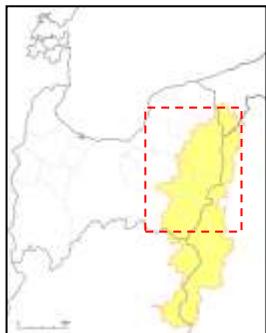
新たな散策ルートの整備による、**魅力創出**

危険性の高い登山道の整備による、**利用者の安全確保**

◎ 実現に向けての課題

- 自然公園法による規制
- 計画に基づいた長期的な整備
登山道の整備は多額の費用を要するため、整備水準の検討、利用形態等から優先順位をつけ計画的な整備が必要。

登山道の整備イメージ



● **弥陀ヶ原～大日平 吊橋の復元整備**
 登山者に訴求できる魅力的な散策ルートを整備



● **歩くアルペンルートの再整備**

- **案内看板の更新**
 多言語表記による国立公園の利用ルール等の周知
- **老朽化した登山道の更新**
 利用者の安全確保、植生踏み荒らしの防止
- **県民協働による登山道の整備**
 山岳関係者・一般ボランティアが協働し、木道の安全対策等を実施



老朽化した木道(スリップ事故多発)



22 環境意識の啓発

◎ 課題

○ 植生の踏み荒らしや、ゴミの投棄などによる自然環境への影響

・国立公園の利用ルール等の周知が不足



○ 利用ルール等を周知徹底する仕組みの構築、指導人材の養成

・利用者に伝える人材、伝わる仕掛けが不足している。



◎ 実現に向けての課題

● 施設整備、指導の在り方の見直し

目的である自然保護思想の普及啓発を達成するためにも、利用者視点に立った取り組みが必要。

◎ プロジェクト

● ビジターセンターのリニューアル

立山自然保護センターの映像設備や称名平休憩所全体のリニューアルを行う。

● 外国語が堪能なナチュラリストの養成

外国語が堪能なナチュラリストを養成し、訪日旅行者にもマナーを含めた普及啓発を行う。

● 訪日旅行者に「伝わる仕掛け」の準備

外国語が話せなくても、国立公園の利用ルール等を多言語で記載した紙を用意し指導に活かすなど、訪日旅行者にも「伝わる仕掛け」を準備。

● 「ファミリー山岳環境整備ボランティア」による外来植物除去活動

これまで参加の少なかった、ファミリー層(親子)の参加を促し、活動の裾野を広げる。

● 弥陀ヶ原等での「利用調整地区」の導入検討

指定区域の散策に対して、一定の立ち入り制限を設定(立ち入り人数・時間・期間の制限、登録引率者が同行する場合のみ立ち入り許可、事前レクチャーの義務化等)

施設充実・人材育成により、
**環境意識の啓発と
利用者満足の両立を図る**

23 山岳トイレの整備

◎ 課題

○ 旧式トイレの更新

- ・整備は進んでいるものの、旧式の和式や汲取り式トイレが残っている。
- ・急増している訪日旅行者には、和式トイレはなじまない。



和式の汲取り式トイレ

○ 積雪期のトイレの利用環境の改善

- ・積雪により、キャンプ場等の山岳トイレは閉鎖される。
- ・一方、携帯トイレの利用率は低く、人間のし尿による環境汚染が発生。



積雪期の雷鳥沢キャンプ場

中部山岳国立公園内のトイレ整備状況

(単位: 箇所)

		H25	H26	H27	
中部山岳 国立公園 内トイレ 整備状況	全体数	79			
	環境配慮型 トイレ数	新規	2	1	0
		整備済	55	57	57
		整備済計	57	58	58
	整備率	72.2%	73.4%	73.4%	

◎ プロジェクト

● 「環境配慮型トイレ」、「洋式トイレ」の整備

県有トイレの更新、山小屋所有トイレの更新の移行支援

● 積雪期に使える「高床式トイレ」の整備

積雪期に、スキー客等の利用が多い「雷鳥沢キャンプ場」に、積雪でも利用可能な高床式トイレを設置

環境汚染の防止、快適な利用環境の整備

◎ 実現に向けての課題

● 春山の積雪が多く、高床式トイレでも対応不可

アルペンルート開通時は、室堂平で10m近い積雪がある。

● 安定的な財源確保、維持管理体制の構築

建設や維持(修繕、汲取り)には、ヘリコプター運搬が必要で、費用がかかる。また、日々の管理も、近隣の山小屋が担っており、負担が大きい。

【コスト試算】

- 山岳トイレ 改修(1棟あたり) 約4,000万円
- 山岳トイレ 建替え(1棟あたり) 約8,000万円
- 山小屋トイレ改修(1小屋あたり) 5,000万～1億円
- 高床式トイレ 約5,000万円



環境配慮型県有トイレ

24 外来植物除去活動の推進

◎ 課題

○ 外来植物の進入・拡散

本来存在しない低地の植物や外国から侵入した植物など「外来植物」の種を観光客や登山者、バス等の車両が運搬することにより、在来植生を脅かしている。



立山高原ホテル下部斜面に侵入したセイヨウタンポポ(シロツメクサ)

○ 除去活動の担い手の不足

これまでボランティアを中心とした除去活動が行われてきたが、参加者、指導者の高齢化が課題。



ナチュラリストから指導を受けるボランティア

<これまでの取り組み>

平成9年からボランティアによる除去活動が活発になり、平成28年現在、約157万本を除去。

当初室堂平で多く見られた「セイヨウタンポポ」は大きく減少した。



とやまの山岳環境整備ボランティア



◎ プロジェクト

● 「ファミリー山岳環境整備ボランティア」による外来植物除去活動

これまで参加の少なかった、ファミリー層(親子)の参加を促し、活動の裾野を広げる。

● 指導者の育成(外国人にも対応)

ナチュラリスト(自然解説員)の養成段階から、外来植物除去に関する基礎知識を習得するとともに、外国語に堪能なナチュラリストを養成し、外国人利用者への普及啓発を行う。

次世代を担う人材を育成、ボランティアを中心とした除去活動を継続し、**拡散を阻止**

◎ 実現に向けての課題

● 新たな進入の阻止

セイヨウタンポポなど減少する種もあるが、新たに20種以上の外来種が確認されている。

25 利用調整地区の導入の検討

◎ 課題

○ 将来を見据えた植生の保全、適切な利用の枠組み

例えば、特別保護地区に指定されている「弥陀ヶ原」での散策は、環境への十分な配慮が必要。

訪日旅行者の増加により、植生への踏み荒らし等が課題となるなか、長期的な視点に立った保全と利用の検討が必要。



特別保護地区に指定されている
弥陀ヶ原湿原(ラムサール条約登録湿地)

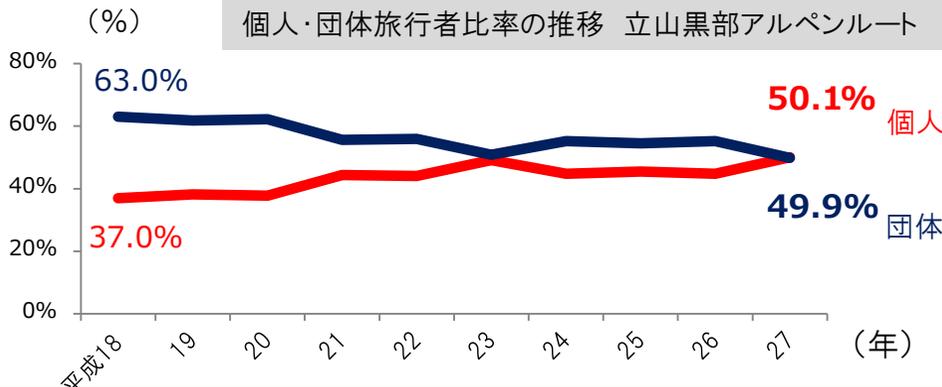
○ 個人旅行者の増加に対応した、滞在プログラムの充実

団体旅行から個人旅行へと旅行形態が推移していく中で、ニーズを捉えた質の高い滞在プログラムが求められている



ピッキオ「野鳥の森ネイチャーウォッチング」

個人・団体旅行者比率の推移 立山黒部アルペンルート



◎ プロジェクト

● 弥陀ヶ原等での「利用調整地区」の導入検討

・指定区域の散策に対して、一定の立ち入り制限を設定
(立ち入り人数・時間・期間の制限、登録引率者が同行する場合のみ立ち入り許可、事前レクチャーの義務化等)

・ライチョウの保全のため、例えば、**積雪期等のライチョウの生息域に立ち入り制限を設定**。(ライチョウのウォッチングツアーやスキー等で生息域に入る際は、事前レクチャーやガイド同行を義務付け)

● 指定地区に、散策の拠点施設を整備

ビジターセンター、ツアーデスク、レクチャールームといった機能を整備し、散策の拠点とする。

立ち入り制限により、**オーバーユースを防ぎ**、植生の保全を図る

立ち入り制限により、**ライチョウの保全**を推進

登録引率者の同行や事前レクチャーによる、**利用マナーの周知徹底**

◎ 参考事例

● 知床五湖

(利用調整地区での取り組み)



・知床では、特別保護区域などの植生を守るため、またヒグマからの被害を防ぐために、知床五湖(特別保護地区)を公園計画「利用調整地区」に指定し、利用者に一定の立ち入り制限を設けている。

・その結果、**植生の保全と適正な利用の両立**が図られるだけでなく、**利用者の満足度と安全性を高める**ことに繋がっている。

知床五湖(利用調整地区での取り組み)

知床国立公園内の特別保護地区に位置する知床五湖では、自然公園法に基づき利用調整地区制度を導入し、観光客による散策に一定の制限を設けることで、過度な利用から植生を保全して適切な利用を推進している。具体的には、地上遊歩道での散策について、事前レクチャーの受講や専門ガイドによる有料ツアーへの参加を必須とするとともに、立ち入り人数を制限する期間を設定している。

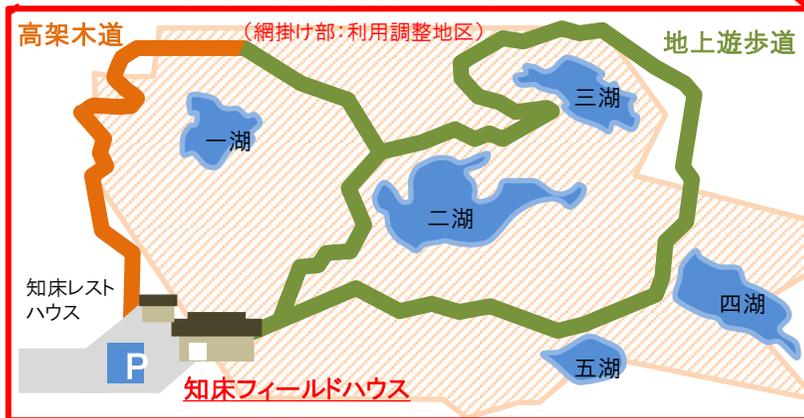


知床五湖

(知床国立公園、北海道)



知床国立公園区域図(環境省)の一部



知床五湖の地図

●利用調整地区制度(自然公園法第23条)

- 国立公園を訪れる人が増え、原生的自然や景観、生物多様性の保全に支障が生じるのを防ぐため、環境大臣が指定した地域における公園利用者の立ち入りを認定制にする制度

(1)地上遊歩道での散策条件の設定

区分	期間(2016年度)	散策条件
植生保護期	開園(4月下旬)~5/9 8/1~10/20	レクチャーの受講が必須
ヒグマ活動期	5/10~7/31	レクチャーの受講及びガイドツアーが必須
自由利用期間	10/21~閉園(11月下旬)	※当該期間は、利用の調整を行う期間外のため、散策条件は設定されていない。

●レクチャー

- 知床フィールドハウスで実施
- 約10分間のビデオと職員からのレクチャー
- ヒグマについての知識を中心に、知床の自然環境や散策の際の注意事項を学ぶ

●登録引率者

(専門ガイド)ツアー

- ヒグマとの遭遇回避や、遭遇時の対処法を習得したプロガイドによるツアー

(2)地上遊歩道への立ち入り人数(時間/日)の制限

区分	認定基準の詳細	
植生保護期	立入人数(時間/日)	300人/3,000人
ヒグマ活動期	1回1チーム人数	11名以下
	立入人数(時間/日)	7チーム/500人

26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

◎ 課題

○ 持続可能な保全と利用の仕組みの確立

これまでの保全活動は多くの方のボランティア(善意)を中心に展開されている。自然が保たれているおかげで観光地としての魅力につながっていることから、「保全するために稼ぐ」、また「稼ぐために保全する」体制が必要。



ボランティアによる外来種除去活動

◎ プロジェクト

● 国立公園内の各事業(料金)に環境保全経費を付加
例えば、アルペンルートの輸送料金に環境保全経費を定率付加

環境保全事業に係る
安定財源の確保

◎ 参考事例

税金による受益者負担例

● 乗鞍環境保全税(岐阜県)

岐阜県乗鞍環境保全税条例及び岐阜県乗鞍環境保全税施行規則において規定

種別	料金	内訳
大型バス	10,200円	駐車料金7,200円 乗鞍環境保全税3,000円
マイクロバス	4,590円	駐車料金3,090円 乗鞍環境保全税1,500円
タクシー	2,050円	駐車料金1,750円 乗鞍環境保全税300円

乗鞍国際観光株式会社HP(上図)には、駐車場利用料金として、駐車料金に加え乗鞍環境保全税が徴収されることが明記されている。

乗鞍

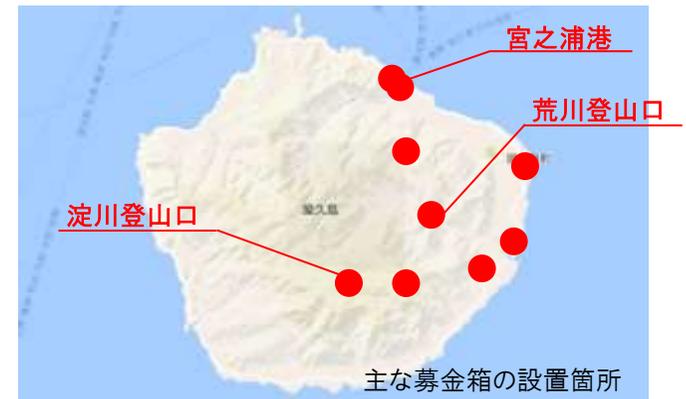
○ 税の徴収

- 乗鞍鶴ヶ池駐車場の指定管理者である乗鞍国際観光株式会社が、駐車料金と合わせて税を徴収し、県に納付している。

協力金による受益者負担例

● 屋久島山岳部保全募金(鹿児島県屋久島町)

屋久島



○ 募金箱

- 各所に募金箱を設置し、協力を呼びかけている。



「税金」による環境保全経費の一部負担（事例）

税金の徴収額は、50～3,000円程度である。

	団体名	導入年	名称	目的・用途	対象者	金額	収入
道府県 法定外目的税	岐阜県	2003	乗鞍環境保全税	環境保全施策を実施するための費用に充当	乗鞍鶴ヶ池駐車場へ入り込む自動車を運転する者（バス・タクシー運転手）	・自動車300円 ・中型自動車1,500円 ・一般乗合用バス2,000円 ・観光バス3,000円	14百万円 (2015年度)
道府県 法定外普通税	福岡県 太宰府市	2003	歴史と文化の環境税	観光・産業の振興、環境の保全等まちづくりのための費用に充当	有料駐車場利用者	・二輪車(自転車除く) 50円 ・自動車 100円 ・マイクロバス 300円 ・大型バス 500円	81百万円 (2015年度)
市町村 法定外目的税	沖縄県 伊是名村	2005	環境協力税	環境の美化、環境の保全及び観光施設の維持整備を行うための費用に充当	旅客船、飛行機等により伊是名村に入域する者	100円/人回 (障がい者、高校生以下は課税免除)	4百万円 (2014年度)

●乗鞍環境保全税(岐阜県)

- 岐阜県乗鞍環境保全税条例及び岐阜県乗鞍環境保全税施行規則において規定

○マイカー規制による課税対象者の限定

- 乗鞍鶴ヶ池駐車場に至る、乗鞍スカイライン及び乗鞍エコラインは、マイカー規制によりマイカーでの通行が不可。したがって、課税対象者である駐車場の利用者は、バス・タクシーに限定されている。

○税の徴収

- 乗鞍鶴ヶ池駐車場の指定管理者である乗鞍国際観光株式会社が、駐車料金と合わせて税を徴収し、県に納付している。

種別	料金	内訳
大型バス	10,200円	駐車料金7,200円、乗鞍環境保全税3,000円
マイクロバス	4,590円	駐車料金3,090円、乗鞍環境保全税1,500円
タクシー	2,050円	駐車料金1,750円、乗鞍環境保全税300円

乗鞍国際観光株式会社HP(上図)には、駐車場利用料金として、駐車料金に加え乗鞍環境保全税が徴収されることが明記されている。

●環境協力税(沖縄県伊是名村)

- 伊是名村環境協力税条例において規定

○税の徴収

- 沖縄本島～伊是名村間のフェリー及び伊是名村～伊平屋村間の渡船を利用し入島する際に、運行業者等が運賃と合わせて税を徴収し、村に納付している。

●旅客運賃表(消費税込)

※運賃とは別に環境協力税(100円)が別途加算されます。

旅客区分	片路	往復
大人(中学生以上)	1,810円	3,440円
小人(小学生以上、12才未満)	910円	1,730円
一般団体(15人以上)	1,630円	3,260円
学生団体(15人以上)	1,270円	2,540円
小人団体(15人以上)	820円	1,640円
大人身障者	910円	1,820円
小人身障者	460円	920円

伊是名村HP(右図)には、運賃とは別に環境保全税が徴収されることが明記されている。

*往復券の有効期間は14日以内有効です。

「協力金」による環境保全経費の一部負担（事例）

協力金の金額は、1人100～1,000円程度である。
 協力金の収受は、受付所や募金箱を対象地域の入口付近に設置して行われている。

団体名	導入年	名称	目的・使途	対象者	金額	収入
熊本県 菊池市	1977	維持管理協力金	優れた景観と清流、原生林の維持を図る費用に充当	菊池渓谷への入谷者	高校生以上 100円/人	14百万円 (2015年度)
青森県 西目屋市	2003	森林環境整備協力金	暗門の滝やその周辺の歩道の修復など環境整備を図る費用に充当	白神山地への入山者	300円以上/人	6百万円 (2015年度)
鹿児島県 屋久島町	2008	屋久島山岳部保全募金	し尿搬出や登山道維持管理、マナー啓発を図る費用に充当	屋久島の山岳地域に入山しようとする者	500円以上/人	15百万円 (2015年度)
山梨県	2013	富士山保全協力金	美しい富士山を後世に引き継ぎ、環境保全や登山者の安全対策等を図る費用に充当	富士山への入山者	1,000円/人	158百万円 (2014年度)

●森林環境整備協力金(青森県西目屋市)

白神山地



暗門渓谷ルート、世界遺産の径ナ林散策道

●屋久島山岳部保全募金(鹿児島県屋久島町)



○ご協力金受付所

- 協力者は、「森林環境整備協力者の証」がもらえる。



○募金箱

- 各所に募金箱を設置し、協力を呼びかけている。



27 とやまのライチョウサポート強化

国内のライチョウの生息数は1980年代には約3,000羽と推定されていたが2000年代には約2,000羽と南アルプスを中心に減少していることから、近年、本県を含め各県でライチョウのサポート活動が始まっている。

このため、本県を含む全国のサポーターが交流する機会を設け、富山型のライチョウ保護対策を全国的に広める。

◎ プロジェクト

● サポーター連携活動

・全国のサポーターが立山室堂でライチョウ保護活動を実施

● 立山室堂ライチョウ見守りネット

・目撃情報や観察ルールの発信

● 利用調整地区の導入の検討

・例えば、積雪期等のライチョウの生息域に立ち入り制限を設定
(ライチョウのウォッチングツアーやスキー等で生息域に入る際は、事前レクチャーやガイド同行を義務付け)



富山型ライチョウ
保護対策を全国
に普及



とやまのライチョウサポート隊

		S50年代	H10年代
ライチョウ の生息数	県内	1,300羽	1,300羽
	全国	3,000羽	2,000羽

◎ 参考事例

長野県、静岡県、山梨県

・南アルプスを中心とするライチョウ生息県において、県民参加によるライチョウのサポート体制づくりが進み各県をはじめ首都圏においても会員を募り、活動を開始している。

- ・平成27年度 長野県 ライチョウサポーターズ
- ・平成28年度 富山県 とやまのライチョウサポート隊
南アルプス自然環境保全活用連携協議会
南アルプスライチョウサポーター

(静岡県、山梨県、長野県及び10市町村、事務局：静岡市)

◎ 課題など

- 保護活動が知られていない
- 歩道が見えない残雪期の保護活動が難しい
- 海外の観光者等は観察ルールを知らない
- 室堂までの交通費が負担



残雪上のライチョウの痕跡

◎ 規制

① 登山等行楽以外の立ち入り

→ 国有林野への入林許可
(林野庁)

② 自動撮影カメラ等の設置

→ 国立公園特別保護地区等工作物新築許可(環境省)



ライチョウ保護柵の設置

27 ライチョウ生息状況調査

ライチョウは、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス等に分布し、本県が日本一の生息地となっている。しかし、環境省の絶滅危惧 I B 類への指定や近年、南アルプスを中心に生息数を減少させるなど、安定的に生息している本県においても生息状況が劇的に変化する可能性がある。このため、生息数調査等を継続し早期に変化を把握する。

◎ プロジェクト

● 生息数調査

- ・隣県と連携して生息状況を把握
- ・県内の代表的な生息地、朝日岳(全国で最も低い標高で繁殖)、立山(高密度で生息)、薬師岳(高密度で生息)において継続調査し、生息環境の変化を早期に把握



ライチョウ生息数調査

● 立山ライチョウ生態調査

- ・生息地域の環境、病理検査、冬季生態、大型獣類生息調査などにより、生態を把握し、保護対策の基礎とする。



ライチョウ生息数の減少を未然に防止する

◎ 参考事例

南アルプス国立公園

ニホンジカによる高山・亜高山帯の生態系への影響が深刻化しているため、南アルプス国立公園においては、捕獲事業や防鹿柵・植生保護復元施設の設置、モニタリング調査等の対策を実施し、さらに影響の拡大防止、植生攪乱地の維持・回復、並びに再発防止のための広域的なシカ個体数管理体制の構築といった中長期的に総合的対策を進めている。

◎ 課題など

- 絶滅が危惧されている。
- 立山にもニホンジカ、イノシシが侵入し始めている。
- 継続した生息状況調査が不足
- 詳しい生態が解明されていない。



立山へもニホンジカが侵入

◎ 導入コスト

ランニングコスト 約700万

◎ 規制

- ① 登山等行楽以外の立ち入り
→ 国有林野への入林許可(林野庁)
- ② 自動撮影カメラ等の設置
→ 国立公園特別保護地区等工作物新築許可(環境省)
- ③ ライチョウの調査捕獲
→ 国内希少野生動植物の個体捕獲等の同意(環境省)
→ 特別天然記念物ライチョウの現状変更許可(文化庁)



自動撮影カメラ等の設置

2. 課題・論点整理 (2) 前回、提示いただいた課題

経済活動	① 上質な滞在環境の整備	混雑対応
		滞在環境の充実
	② 新しい魅力の発掘・磨き上げ	通年営業
		新しい魅力の発掘・磨き上げ
	③ 顧客層にあわせた受入環境の整備	新規市場の開拓・個人旅行者への対応
		ユニバーサルデザイン
		散策ルート of 整備
	④ 周遊性の確保	周遊ルートの確保
エリア内周遊の促進		
環境保全	⑤ 環境保全の推進	自然環境の適正利用
		自然環境の保全
		ライチョウの保全
安全性	⑥ 安全対策	利用者の安全確保

28 安全確保のための情報提供の充実(雪崩事故対策)

立山室堂周辺では、積雪期に山岳スキーや冬山登山を目的に多くの登山者、スキーヤーが訪れるが、近年6件の雪崩死亡事故(12名死亡)が発生しており、安全対策の強化が必要。



◎ プロジェクト

● 立山室堂地区山岳スキー等安全指導要綱による取組強化

室堂ターミナル内の入山安全相談窓口において入山届の受理や現地での情報提供などの提供を行っている「入山指導員」の増員が必要。

● 雪崩危険度情報のスマートフォンアプリによる発信の検討

現在ホームページで発信しているが、スマートフォンが普及していることから、富山なび(実証実験中)等により、危険度情報が上がった場合にはアプリによる「通知」を注意喚起を促す。

より確実に広く周知が可能となる

◎ 課題など

● 混雑時の対応

ピーク時には、2時間程度の間1000人程度のスキーヤー等が窓口へ殺到し、十分な指導の実施が困難。

● 冬山に匹敵する気象条件

標高2500mの室堂平は、荒天となれば、冬山に匹敵する気象条件となる。人為的に雪崩を防ぐことは不可能であり、また注意喚起にも限界がある。

● 人員の確保

入山指導員は専門的な登山指導のほか、積雪断面観測を行うスキルも必要ことから人材の確保が困難。

● 通年営業に対する対応

完全な冬山に対応できるスキルを持ったもののみが入山できる山域である。

【これまでの取り組み】



入山安全相談窓口



現地で積雪断面観測を行い情報発信



◎ 導入コスト

現在までの取り組みのランニングコスト	約670万円
入山指導員増員によるランニングコスト	約300万円
アプリ開発イニシャルコスト	約500万円
アプリのランニングコスト	約 30万円

イニシャルコスト 約 **500万** ランニングコスト 約 **1000万**